令和２年度

長期研修研究報告詳細版

運動やスポーツとの多様な関わり方
「する」「知る」「見る」「応援する」を理解する
特別支援学校における体育理論の授業

–体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習–

神奈川県立総合教育センター

体育指導センター　長期研究員

神奈川県立秦野養護学校　石川　徹哉

目次

第１章　研究を進めるにあたって

１　研究主題・・・

第１章　研究を進めるにあたって

１　研究主題

運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解する
特別支援学校における体育理論の授業
― 体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習 ―

２　主題設定の理由

平成 31 年告示の『特別支援学校高等部学習指導要領』（以下、『新学習指導要領』という）では、保健体育科の内容において、高等学校保健体育科の内容との連続性を踏まえて、体育分野として体育理論を含む８領域と保健分野の１領域で示され、新たに体育理論が加えられた（文部科学省　2019a　pp. 226-232）。

体育理論について、『新学習指導要領』では、運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義といった内容が、二つの段階で示され、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。

また、「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「３学年間にわたって取り扱うこと」、「運動やスポーツを『すること』、『知ること』、『見ること』、『応援すること』などの多様な関わり方についても取り扱うようにすること」（文部科学省　2019a　pp. 231-233）と示された。そして、平成 31 年の『特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編（下）（高等部）』（以下、『新解説知的（下）』という）においては、体育理論について、「運動やスポーツの幅広い知識を身に付け、豊かなスポーツライフの実現に向けた基盤となる学習である」（文部科学省 2019b　p. 63）と解説されている。

このように、体育理論が新たに位置付けられたが、特別支援学校においての授業実践がなく、今後の授業づくりにおいて試行錯誤が続くと考えらえる。そこで本研究では、仮説検証の成果と課題を踏まえた授業づくりのポイントを提案することができれば、特別支援学校高等部における体育理論の授業づくりに貢献できると考えた。

一方、『新学習指導要領』における保健体育科の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、（中略）豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（以下略）」（文部科学省　2019a　p. 226）と示されている。また、『新解説知的（下）』において、体育の見方・考え方とは、「自己の適正等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること』」（文部科学省　2019b　pp. 57-58）と解説されている。

つまり、授業で「体育の見方・考え方」を働かせるには、運動やスポーツの価値や特性などの知識とともに、「する」「知る」「見る」「応援する」の多様な関わり方などに関する知識が必要であると考えることができる。そこで、運動やスポーツとの関わり方について、生徒の実態把握をしたところ、多くの生徒は「知る」「応援する」といった関わり方についての知識をもち合わせていないのではないかと考えられた。

これらのことから、本研究においては、入学年次の体育理論の授業で、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」について扱うこととした。その際、生徒が実感を伴って理解できるよう、「知る」「応援する」に関わる体験活動を重点的に取り入れ、体験活動後に自らの運動やスポーツ活動について考える活動を行うこととした。

以上のことから、生徒が体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習を行うことで、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解できると考え、本主題を設定した。

３　研究の目的

体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考えることによって、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解する、特別支援学校知的障害教育部門１年生における体育理論の授業づくりのポイントを提案する。

４　研究の仮説

特別支援学校知的障害教育部門高等部１年生の体育理論の授業において、生徒が体験活動※を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習によって、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解することができるであろう。

※本研究では、運動やスポーツについての実態把握をしたところ、生徒が知識としてもち合わせていないであろうと考えられる「知る」「応援する」に関わる次の体験活動を重点的に行うこととした。

・陸上競技における世界記録を「知る」体験活動
・運動やスポーツを「する」人を集団で「応援する」体験活動

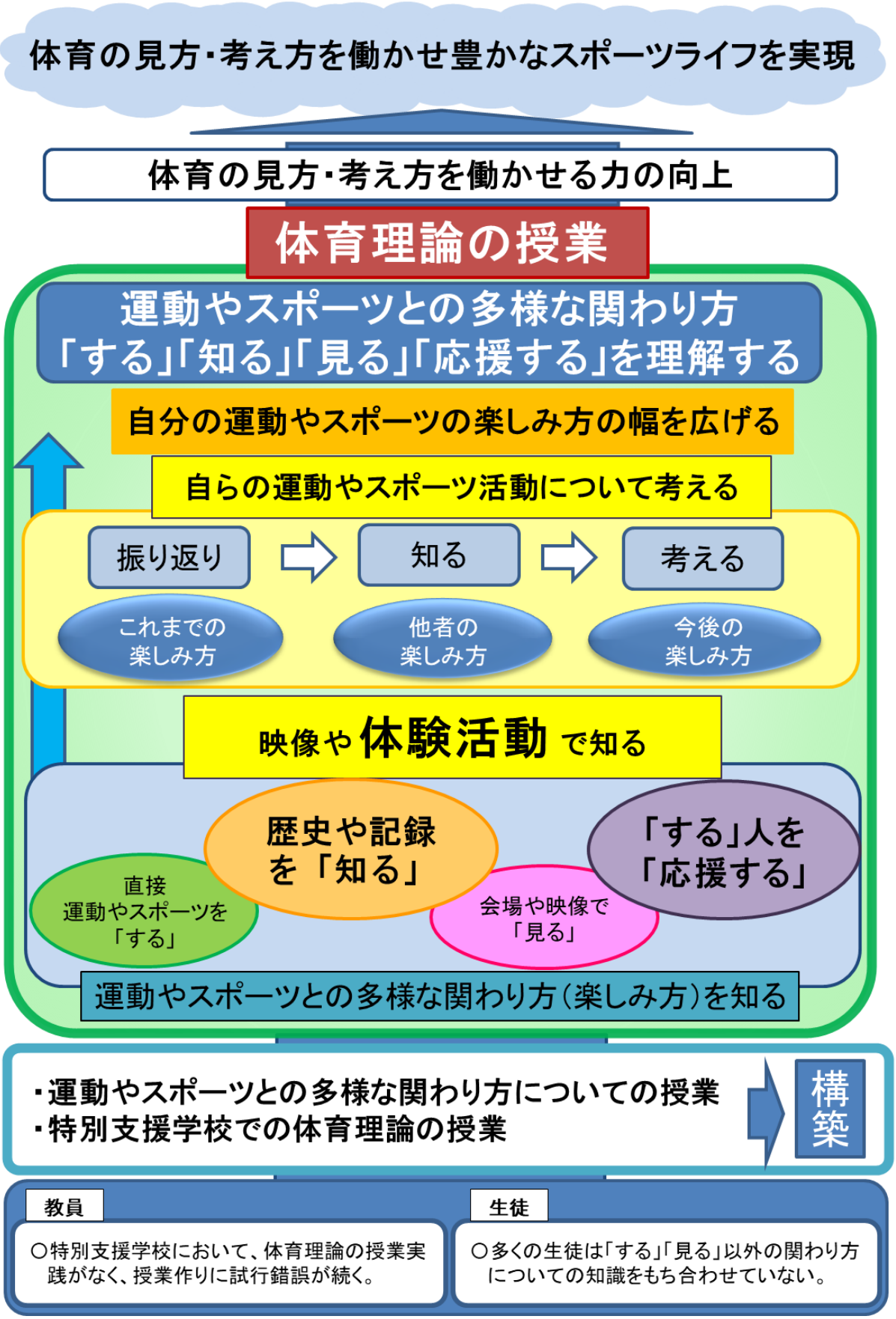
５　研究の方法

（１）授業を実践するにあたって、理論的研究を行い、仮説を設定する。
（２）理論研究を基に指導と評価の計画を立て、授業を実践する。
（３）理論研究と仮説検証の結果を基に、研究のまとめを行う。

６　本研究における用語の使い方

（１）本研究においては、「運動」を「スポーツ」に含めて使用することもある。
（２）本研究においては、「運動やスポーツとの多様な関わり方」という表現について、知的障害のある生徒が理解しやすいよう「運動やスポーツの四つの楽しみ方」と表現している。

7　研究の構想図


体育の見方・考え方を働かせ豊かなスポーツライフを実現
体育の見方・考え方を働かせる力の向上
体育理論の授業
運動やスポーツとの多様な関わり方
「する」「知る」「見る」「応援する」を理解する
自分の運動やスポーツの楽しみ方の幅を広げる
自らの運動やスポーツ活動について考える
振り返り
知る
考える
これまでの楽しみ方
他者の楽しみ方
今後の楽しみ方
映像や体験活動で知る
歴史や記録を「知る」
「する」人を「応援する」
直接運動やスポーツを「する」
会場や映像で「見る」
運動やスポーツとの多様な関わり方（楽しみ方）を知る
・運動やスポーツとの多様な関わり方についての授業
・特別支援学校での体育理論の授業
構築
教員
○特別支援学校において、体育理論の授業実践がなく、授業作りに試行錯誤が続く。
生徒
○多くの生徒は「する」「見る」以外の関わり方についての知識をもち合わせていない。

第２章　理論の研究

１　特別支援学校高等部（知的障害教育部門）保健体育科について

（１）目標及び体育の見方・考え方について

『新学習指導要領』では、保健体育科全体の目標が「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（以下略）」（文部科学省 2019a　pp. 226-229）と示された。そして、「体育や保健の見方・考え方」のうち、体育の見方・考え方について『新解説知的（下）』では、「生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、『運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた[する・みる・支える・知る]の多様な関わり方と関連付けること』」（文部科学省　2019b　pp. 57-58）と解説されており、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方は、後述する体育理論の内容（pp. 5-6 参照）と関係している。

（２）内容について

表１は、平成 21 年の『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（高等部）』（以下、『解説総則等編』という）と『新学習指導要領』における保健体育科の内容について整理し、比較したものである。

『解説総則等編』では、「いろいろな運動」、「きまり」、「保健」（文部科学省　2019b　p. 56）の三つの観点で内容が示されていたが、『新学習指導要領』では、高等学校保健体育科との連続性を踏まえ、体育分野で「体育理論」を含む８領域、保健分野を１領域で示された（文部科学省　2019a　pp. 226-232）。表１のからは、新たに加えられた具体的な内容（領域）が体育理論であることがわかる。

このことから、特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の保健体育科の授業づくりの中で、今後特に体育理論の授業づくりが課題となると考えられる。

表１　知的障害教育部門における保健体育科の内容

『解説総則等編領』	『新学習指導要領』
「いろいろな運動」	Ａ　体つくり運動
○体つくり運動	Ｂ　器械運動
○いろいろなスポーツ	Ｃ　陸上競技
・陸上運動	Ｄ　水泳
・水泳	Ｅ　球技
・球技	Ｆ　武道
・武道	Ｇ　ダンス
・器械運動など	Ｈ　体育理論
○ダンス	Ｉ　保健
「きまり」	
「保健」	

２　体育理論について

（１）内容について

『新学習指導要領』では、体育理論の内容として「運動やスポーツの多様性」、「運動やスポーツの効果と学び方」、「運動やスポーツの安全な行い方」、「文化としてのスポーツの意義」が二つの段階で示されている（表２）（文部科学省　2019a　pp. 228-231）。また、『新解説知的（下）』には、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するため、『スポーツの多様性』を踏まえ、個々の状況に応じた『運動やスポーツの効果と学び方』や『安全な行い方』そして『文化としてのスポーツの意義』などが構成内容として示されている。これらの内容は，運動やスポーツの合理的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する知識等を中心に示し、現在及び将来における自己の適性等に応じた運動やスポーツとの多様な関わり方を見付けることができるようにすることが大切である」（文部科学省　2019b　p. 63）と述べている。

『新解説知的（下）』では、体育理論が領域として新たに位置付けられたことについては、「中学校や高等学校との連続性を踏まえ、運動やスポーツの幅広い知識を身に付け、豊かなスポーツライフの実現に向けた基盤となる学習である」（文部科学省　2019b　p. 63）と述べている。

『新学習指導要領』には、体育理論の内容が、１段階、２段階に分けて示され、内容の取扱いにも配慮事項が示された（表２）（文部科学省　2019a　pp. 228-233）。

表２の記載内容から、対象生徒が１年生である本研究の授業においては、「運動やスポーツの多様性」について指導することがよいと考えた。また、その中でも、内容の取扱いに示されている「『すること』『知ること』『見ること』『応援すること』などの多様な関わり方」を中心に取り扱うこととした。

表２　『新学習指導要領』における体育理論の内容及び内容の取扱いの配慮事項

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
1段階	**運動やスポーツの多様性、**効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に気付くこと。	**運動やスポーツの多様性、**効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	**運動やスポーツの多様性、**効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての学習に積極的に取り組むこと。
2段階	運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に関する基礎的な知識を身に付けること。	運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むこと。
◇内容の取扱いの配慮事項			
ケ　「H 体育理論」については、オリンピック・パラリンピックなどの国際大会の意義や役割、フェアプレイの精神等に触れるとともに、**運動やスポーツを「すること」、「知ること」、「見ること」、「応援すること」などの多様な関わり方**についても取り扱うようにすること。			

※『新学習指導要領』の記載内容を踏まえ、筆者が作成

※**太字**は本研究の授業において、指導した内容

（２）運動やスポーツの多様性について

表３は、体育理論で学ぶ「運動やスポーツの多様性」の内容及び指導上の配慮事項について整理したものである（文部科学省　2019b　pp. 75-76, pp. 91-92, p. 100）。

１段階においては、運動やスポーツが多様な楽しみ方から生み出されてきたことや、運動やスポーツには「すること・知ること・見ること・応援（支援）すること」などの多様な関わり方（**太字**）があることなどについて示されている。

２段階においては、競技としてのスポーツ、生涯にわたって楽しめるスポーツ、健康を維持するためのスポーツなどの運動やスポーツの多様性について示されている。さらに、２段階においては、フェアプレイに関することやルールの工夫、勝敗に係わらず健闘を称えあうことの理解についても示されている。

表３　『新解説知的（下）』における体育理論（運動やスポーツの多様性）の内容及び指導上の配慮事項

◇運動やスポーツの多様性についての説明	
1段階（文部科学省　2019b　pp.75-76）	2段階（文部科学省　2019b　pp.91-92）
1　・体を動かしたり、健康を維持したりする。 ⇒必要性 ・競技に応じた力を試したり、記録等を達成したり、自然と親しんだり、仲間と交流したり、感情を表現したりするなど。 ⇒多様な楽しさ （生みだされてきたこと） 2　**・すること・知ること・みること・応援（支援）することなどの多様な関わり方があること。**	○人々の生活と深く関わりながら、その時々の社会の変化とともに、その捉え方が、競技としてのスポーツから、誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツへと変容してきたことなどのこと。
○すること　：　直接「行うこと。」 **○知ること　：　例えば、運動やスポーツの歴史や記録などを書物やインターネットなどを通して調べる関わり方があること。** **○みること　：　例えば、テレビなどのメディアや競技場等での観戦を通して一体感を味わったり、研ぎ澄まされた質の高い動きに感動したりするなどの多様な関わり方があること。** **○応援（支援）すること　：　運動の学習で仲間の学習を応援（支援）したり、大会や競技会の企画をしたりするなどの関わり方があること。** ⇒理解できるようにすること	○健康を維持する必要性に応じて運動を実践する際には、例えば体つくり運動の学習では、体を動かすことの心地よさを楽しんだり、体の動きを高めることを楽しんだりする行い方があること。 ○競技に応じた力を試す際には、ルールやマナーを守りフェアに競うこと、世代や機会に応じてルールを工夫すること、勝敗にかかわらず健闘を称え合う等の行い方があること。 ⇒理解できるようにすること ○障害のある生徒と障害のない生徒がともにスポーツをする機会などを通して、共に支え合う社会の形成。 ⇒推進していくことが大切
◇内容の取扱いと指導上の配慮事項（文部科学省　2019b　p.100）	
○オリンピック・パラリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界の平和に貢献しようとするものであること、また、パラリンピック競技大会等の国際大会が、障害の有無等を超えてスポーツを楽しむことができる共生社会の実現に寄与していること。⇒理解できるようにすること ○参加する選手がルールやマナーを守りフェアに競っていること、勝敗にかかわらず健闘を称え合っていることなど。⇒触れることが大切 **○運動やスポーツには、する、知る、見る及び応援するなどの多様な関わり方があること。**⇒取り扱うこと ○目的や年齢、障害の有無、性の違いを超えて運動やスポーツを楽しむことができるような社会を形成していく視点。⇒触れることが大切	

※『新解説知的（下）』の記載内容を踏まえ、筆者が作成

※**太字**は本研究の授業において、指導した内容

本研究の対象生徒に対して運動やスポーツ関わり方についての実態把握をしたところ、多くの生徒は「知る」「応援する」といった関わり方についての知識をもち合わせていないのではないかと考えた。

このことを踏まえ、本研究の授業で取り扱うこととした、「すること」「知ること」「見ること」「応援すること」のうち、「知ること」と「応援すること」を重点的に指導する必要があると考えた。

なお、指導に当たっては、生徒が理解しやすい言葉で表現するという意図と、「理解したことを今後の運動やスポーツの楽しみ方に繋げて欲しい」という願いから、運動やスポーツとの多様な関わり方を「運動やスポーツの四つの楽しみ方」と表現することとした。

3　体験活動について

平成 28 年の中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下、「中教審答申）という」では、教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力について、次のように記載されている（中央教育審議会　2016　p. 35）。

これまで全ての教科等において重視されてきている体験活動や協働的な学習、見通しや振り返りといった学習活動も、それらを通じて、学習を充実させる社会生活で生きる重要な資質・能力が育まれているということを捉えなおし、更なる充実を図っていくことが求められる。（下線は筆者加筆）

さらに、「中教審答申」では、発達の段階や子どもの学習課題等に応じた学びの充実について、「（前略）学んだことの意義を実感できるような学習活動も極めて重要であり、体験活動を通じて、様々な物事を実感を伴って理解したり、人間性を豊かにしたりしていくことも求められる」と指摘している（中央教育審議会　2016　p. 53）。

以上のことから、実感を伴って理解する体験学習が今後も求めれらていることがわかる。

このことを踏まえ、一般的には座学で知識を学ぶことがイメージされやすい体育理論ではあるが、本研究における体育理論の授業では、体育館において、体験活動を通じて実感を伴って理解できるようにした（pp. 20-22 参照）。さらに、広い体育館での授業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対という面でも有効であると考えた。

４　形成的授業評価について

高橋らは、「各時間の授業実践を形成的に評価し、当初の計画を修正したり、個々の児童生徒の学びの実態を把握することは、授業成果を高めるうえできわめて重要である」（高橋他　2003 p.12-15）と述べ、体育授業について評価する指標として「成果」「意欲・関心」「学び方」「協力」の４次元９項目から成る「形成的授業評価票」を作成した（表４）。

表４　高橋らによる形成的授業評価票

体育授業についての調査　　月　　日　（　）

小・中学校　　年　　組　　男・女　　番　　名前（　　）

◎きょうの体育授業について質問します。下の１～９について、あなたはどう思いましたか。
あてはまるものに〇をつけてください。

１．深く心に残ることや、感動することがありましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
２．今までできなかったこと（運動や作戦）ができるようになりましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
３．「あっ、わかった！」とか「あっ、そうか！」と思ったことがありましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
４．せいいっぱい、全力をつくして運動することができましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
５．楽しかったですか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
６．自分から進んで学習することができましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
７．自分のめあてにむかって何回も練習できましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
８．友だちと協力して、なかよく学習できましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）
９．友だちとお互いに教えたり、助けたりしましたか。	（はい・どちらでもない・いいえ）

※各質問項目の次元１～３＝成果、　４～５＝意欲・関心、６～７＝学び方、８～９＝協力
※**太字**は本研究において、毎時間後に実施した質問事項

本研究で行う体育理論の授業においても、生徒が毎時間の授業をどのように捉えたかを把握し、授業改善を図ることは重要であると考え、形成的授業評価票を使用し、形成的授業評価を実施することとした。使用に当たっては、体育理論が運動の実技を伴わない学習であることから全９項目の質問のうち、実技についての質問を省くこととした。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から、協力が必要な活動を極力少なくして授業構築を行っており「協力」の質問も省くこととした。

実施方法は、毎時間の授業後に四つの質問項目に「はい」「どちらでもない」「いいえ」の３段階で自己評価してもらい、「はい」に３点、「どちらでもない」に２点、「いいえ」に１点を与えて授業ごとの平均値を算出し、生徒が授業をどのように捉えたか把握することとした。

平均値については、高橋らが定めた形成的授業評価の診断基準（表５　p.9 参照）に照らして５段階で評価することとした（高橋他　2003　p.14-15）。

なお、形成的授業評価の総合評価については、全項目を扱わないため行わず、本研究で活用した項目のみを評価することとした。

表５　「形成的授業評価」の診断基準

次元	評定 項目	5	4	3	2	1
成果	**1．感動の体験**	**3.00～2.62**	**2.61～2.29**	**2.28～1.90**	**1.89～1.57**	**1.56～1.00**
	2．技能の伸び	3.00～2.82	2.81～2.54	2.53～2.21	2.20～1.93	1.92～1.00
	3．新しい発見	**3.00～2.85**	**2.84～2.59**	**2.58～2.28**	**2.27～2.02**	**2.01～1.00**
	次元の評価	3.00～2.70	2.69～2.45	2.44～2.15	2.14～1.91	1.90～1.00
意　欲 ・ 関　心	4．せいいっぱいの運動	3.00	2.99～2.80	2.79～2.56	2.55～2.37	2.36～1.00
	5．楽しさの体験	**3.00**	**2.99～2.85**	**2.84～2.60**	**2.59～2.39**	**2.38～1.00**
	次元の評価	3.00	2.99～2.81	2.80～2.59	2.58～2.41	2.40～1.00
学び方	**6．自主的学習**	**3.00～2.77**	**2.76～2.52**	**2.51～2.23**	**2.22～1.99**	**1.98～1.00**
	7．めあてをもった学習	3.00～2.94	2.93～2.65	2.64～2.31	2.30～2.03	2.02～1.00
	次元の評価	3.00～2.81	2.80～2.57	2.56～2.29	2.28～2.05	2.04～1.00
協力	8．なかよく学習	3.00～2.92	2.91～2.71	2.70～2.46	2.45～2.25	2.24～1.00
	9．協力的学習	3.00～2.83	2.82～2.55	2.54～2.24	2.23～1.97	1.96～1.00
	次元の評価	3.00～2.85	2.84～2.62	2.61～2.36	2.35～2.13	2.12～1.00
総合評価(総平均)		3.00～2.77	2.76～2.58	2.57～2.34	2.33～2.15	2.14～1.00

※**太字**は本研究において、実施した形成的授業評価の診断基準

第３章　検証授業

１　検証授業

（１）期間

令和２年９月 28 日（月）～10 月 12 日（月）３時間扱い

（２）場所

神奈川県立秦野養護学校　落合校舎　体育館

（３）授業者と対象者

授業者　神奈川県立秦野養護学校　教諭　石川徹哉（筆者）、他8名

対象者　知的障害教育部門高等部第１学年 25 名

○対象者の実態について

地域の中学校からの入学者が 23 名、中学部からの進学者が2名である。

地域の中学校からの入学者については、授業者の説明を理解し、言葉でのやり取りをすることができる。内向的な生徒が多く、自分から積極的に情報を発信することは少ない。自分の考えていることを記述し、伝えることができる。

中学部からの生徒については、文字を書くことや自分のことを伝えることは難しい。

（４）単元名

体育　Ｈ体育理論　運動やスポーツの多様性

「運動やスポーツと自分 ～運動やスポーツの楽しみ方を見つけよう～」

２　検証方法

（１）主なデータの収集方法

ア　アンケート調査（資料編 pp. １－５参照）

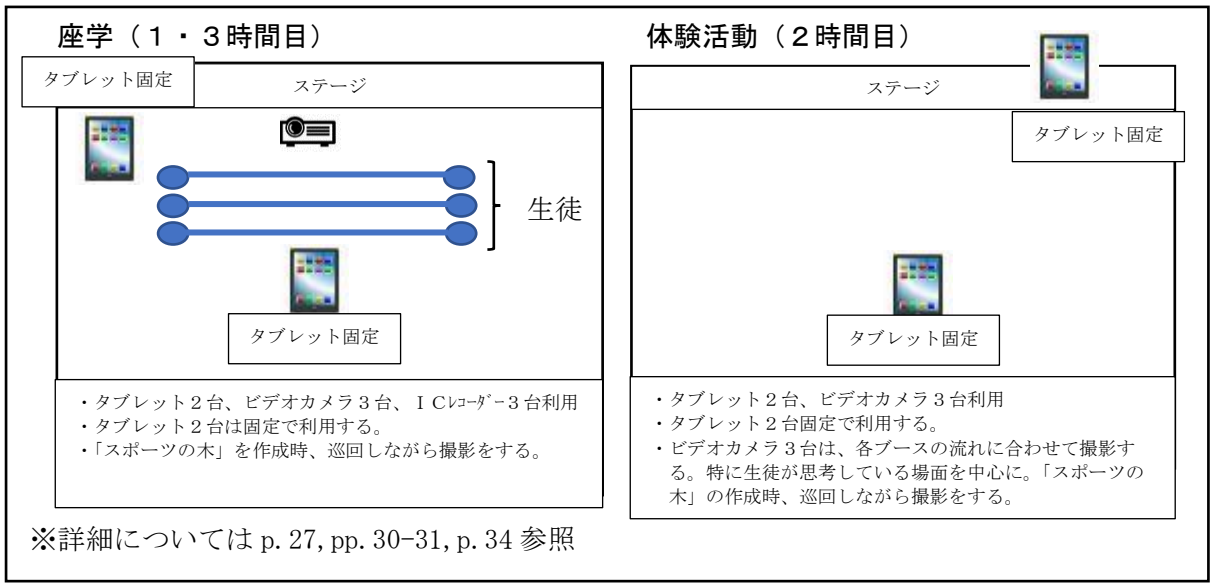
（ア）「体育についての事前アンケート」　９月 25 日（金）ＬＨＲにて生徒に実施

（イ）「体育についての事後アンケート」 10 月 23 日（金）ＬＨＲにて生徒に実施

（ウ）「体育理論の授業に関するアンケート」 10 月 26 日（月）教員に配付

イ　学習プリント及び振り返りプリント（１～３時間）（資料編 pp. 14-15、pp. 27-28、pp. 37 参照）

ウ　授業の動画（１～３時間）



※詳細については p. 27, pp. 30-31, p. 34 参照

（２）検証の視点と方法

【研究の仮説】

特別支援学校知的障害教育部門高等部１年生の体育理論の授業において、生徒が体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習によって、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解することができるであろう。

ア　生徒が授業をどのように捉えたか。

具体的な視点	手がかり	内容・方法等
生徒が授業をどのように捉えたか。	振り返りプリント（毎時）	形成的授業評価票（高橋他 2003）から抜粋した質問項目
		感動の体験：深く心に残ることや、感動することがありましたか。（3件法） 新しい発見：「あっ、わかった！」とか「あっ、そうか！」と思ったことがありましたか。（3件法） 楽しさの体験：今日の授業は楽しかったですか。（3件法） 自主的学習：自分から進んで学習することができましたか。（3件法）

イ　体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考えることができたか。

具体的な視点	手がかり	内容・方法等
体験活動を通じて「知る」楽しさと「応援する」楽しさが伝わったか。	振り返りプリント（2時間目）	質問：「知る」ことの楽しさは、わかりましたか。（4件法） 質問：「知る楽しさ」を体験してみた感想をかける範囲で自由に書いてください。（自由記述） 質問：「応援する」ことの楽しさは、わかりましたか。（4件法） 質問：「応援する楽しさ」を体験してみた感想をかける範囲で自由に書いてください。（自由記述）
自らの運動やスポーツ活動について考えることができたか。	事後アンケート	質問：「自分が運動やスポーツをする」ことの楽しさについて、考えることができましたか。（4件法） 質問：「自分が運動やスポーツを知る」ことの楽しさについて、考えることができましたか。（4件法） 質問：「自分が運動やスポーツを見る」ことの楽しさについて、考えることができましたか。（4件法） 質問：「自分が運動やスポーツを応援する」ことの楽しさについて、考えることができましたか。（4件法）

ウ　運動やスポーツとの多様な関わり方を理解することができたか。

具体的な視点	手がかり	内容・方法等
運動やスポーツの楽しみ方が、どのように変容したか。	「スポーツの木」 ※自分が運動やスポーツをどのように楽しみたいかを付箋に書き、その付箋を貼った木のイラストのこと	・運動やスポーツの四つの楽しみ方に変化が見られたか。 ・運動やスポーツの楽しみ方の増加が見られたか。 ・付箋に書いた記述内容に質的な変化があったか。
	振り返りプリント （3時間目）	質問：先生のスポーツの木を見てどう思いましたか。
運動やスポーツの四つの楽しみ方が理解できたか。	事後アンケート	質問：3時間の授業で、運動やスポーツの楽しみ方として、「する」「知る」「見る」「応援する」について学習しましたが、どのようなことがわかりましたか。わかったことを書いてください。（自由記述） 質問：授業の感想を書いてください。（自由記述）

３　学習指導計画

（１）単元の目標

ア　運動やスポーツの多様性に関する、基礎的な知識に気付けるようにする。
【知識及び技能】

イ　運動やスポーツの多様性についての課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えることができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】

ウ　運動やスポーツの多様性についての学習に積極的に取り組むことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア　①運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援（支援）する」など（以下、運動やスポーツとの多様な関わり方という）について言ったり、書き出したりしている。	イ　①自身の運動やスポーツの経験から、運動やスポーツとの多様な関わり方を見付ける。 ②自身のこれからの運動やスポーツとの多様な関わり方について、考えたことを友達に伝えたり、書き出したりしている。	ウ　①運動やスポーツとの多様な関わり方について、体験活動に、積極的に取り組もうとしている。

（３）指導体制

特別支援学校の体育指導は、メインティーチャー（以下、ＭＴという）とサブティーチャー（以下、ＳＴという）による複数教員での指導が基本となる。

本研究において、生徒が体験活動や自らの運動やスポーツ活動について考える活動（参照.16-22）を行うことから、ＳＴの主な役割の他に、体験活動の補助や生徒に手本を見せるなどの役割を加えて、単元を計画することとした。ＭＴとＳＴの役割は、次のとおりである（表６－１～４）。

表６－１　本単元で加えた教員の役割

１時間目：自らの運動やスポーツ活動について考える活動	
内容：「スポーツの木」をつくり、運動やスポーツの四つの楽しみ方 「する」「知る」「見る」「応援する」について考える	
授業者	役割
ＭＴ	つくり方の指導、全体の巡視
ＳＴ①～⑤	全体の巡視、付箋への記入及び振り分け方の補助
ＳＴ⑥	個別支援生徒の補助
ＳＴ⑦～⑧	個別支援生徒の補助（個別支援教材使用）

表６－２　本単元で加えた教員の役割

２時間目：「知ること」の体験活動	
内容：100m走の世界記録を出した際の歩幅の広さを知る	
授業者	**役割**
ＭＴ	体験活動の仕方の指導、注意事項の確認、スタートの合図
ＳＴ①	体験活動の手本、記録用紙の記入補助
ＳＴ②	スタートの補助、生徒の誘導
ＳＴ③	生徒の誘導、記録用紙の記入補助
ＳＴ④	ゴールの安全確認、生徒の誘導
ＳＴ⑤	ゴールの安全確認、生徒の誘導
ＳＴ⑥～⑧	個別支援生徒の付き添い

表６－３　本単元で加えた教員の役割

２時間目：「応援すること」の体験活動	
内容：ホームラン競争を「する」人を応援する	
授業者	役割
ＭＴ	応援のやり方の指導、応援団長
ＳＴ①	ホームラン競争に挑戦「する」人
ＳＴ②	ホワイトボードへ記録の記入
ＳＴ⑤	太鼓でリズムを刻み、応援の補助
ＳＴ ③～④、⑥～⑧	個別支援生徒と一緒に応援

表６－４　本単元で加えた教員の役割

３時間目：自らの運動やスポーツ活動について考える活動	
内容：他者の運動やスポーツの楽しみ方を知ったうえで、「スポーツの木」をつくり、運動やスポーツの四つの楽しみ方「する」「知る」「見る」「応援する」について考える	
授業者	**役割**
ＭＴ	つくり方の指導、全体の巡視
ＳＴ①～②	運動やスポーツとの関わり方を発表、付箋への記入及び振り分け方の補助 全体の巡視
ＳＴ③～⑤	全体の巡視、付箋への記入及び振り分け方の補助
ＳＴ⑥	個別支援生徒の補助
ＳＴ⑦～⑧	個別支援生徒の補助（個別支援教材使用）

（４）単元の概要（３時間）

時 分	1（9月 28 日）	2（10 月5日）	3（10 月 12 日）
テーマ	運動やスポーツの四つの楽しみ方について知ろう	運動やスポーツの「見る」「応援する」楽しさを実感しよう	自分に合った運動やスポーツの楽しみ方を考えよう
指導内容	運動やスポーツの多様性に気付けるようにすること。	運動やスポーツの多様性についての学習に積極的に取り組むこと。	運動やスポーツの多様性についての課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えたりすること。
5	◇挨拶、出席確認 ◇ジェスチャークイズ ◇本時のめあての説明 ◇本時の学習の流れ	◇挨拶、出席確認 ◇ジェスチャークイズ ◇本時のめあての説明 ◇本時の学習の流れ	◇挨拶、出席確認 ◇クイズ ◇本時のめあての説明 ◇本時の学習の流れ
10 15 20 25 30 35	◇運動やスポーツの楽しみ方を考える。 ・どのように運動やスポーツを楽しみたいかを付箋に書く。 ◇オリンピック・パラリンピックってどんな大会？ ・オリンピック、パラリンピックについてどのような意義をもった大会なのかについて知る。 ・オリンピック・パラリンピック大会動画を見て選手の優れたパフォーマンスを感じる。 ◇どんな人が写っている？ ・オリンピック・パラリンピック大会の画像を見て、運動やスポーツには四つの楽しみ方があることを知る。 ・オリンピック・パラリンピック大会に関する CM を見て、運動やスポーツを「応援する」ということは、色々な方法があることを知る。 ◇私の「スポーツの木」を作ろう！振り分けよう！ ・自分で考えた楽しみ方の付箋を運動やスポーツの四つの楽しみ方別に振り分ける。	◇「知識の広場」（知る） 陸上の世界記録を知るとともに、体験活動を通じて、選手のパフォーマンスを実感する ・陸上の世界記録クイズをする。 ・走り高跳びと棒高跳びの動画を見る。 ・世界記録の高さまで上がったヘリウムガス風船を見て、高さを実感する。 ・世界記録保持者ウサイン・ボルト選手の動画を見る。 ・スタートから7歩の歩幅を実際に走り、歩幅の広さを体験する。 ◇「秦養応援団」（応援する） 応援の方法について知るとともに、集団で応援する楽しさや一体感について実体験を基に考える。 ・応援の様子の動画を見る。 ・応援の練習をする。 ・ホームラン競争にチャレンジする先生を応援し、一体感や応援する楽しさを実感する。	◇前時の振り返り ・前時の動画を見ながら、運動やスポーツの四つの楽しみ方について、振り返る。 ◇「先生の『スポーツの木』」ってどんな木なの？ ・「先生の『スポーツの木』」について、代表の先生の紹介を聞く。 ・体育館に掲示された学年の先生達が書いた「先生の『スポーツの木』」を見て回り、人それぞれの運動やスポーツの楽しみ方について知ることで、自分の運動やスポーツの楽しみ方の幅を広げる。 ◇私の「スポーツの木」を大きくしよう！！ ・授業を受けた上で、これからどのように運動やスポーツを楽しみたいかを付箋に書く。 ・自分で考えた楽しみ方の付箋を運動やスポーツの四つの楽しみ方別に振り分ける。 ・友達の「スポーツの木」についての発表を聞く。
40 45	◇まとめ（振り返り） ・振り返り ・次回の授業の予告 ◇挨拶	◇まとめ ・振り返り ・次回の授業の予告 ◇挨拶	◇まとめ ・振り返り ・次回の授業の予告 ◇挨拶
予想される生徒の様子	・運動やスポーツとの多様な関わり方を学び、「する」以外にも、色々な形で運動やスポーツに関われるということに気付く。	・体験活動を通じて、「知る」「応援する」楽しさを実感しながら理解する。	・これまでの学習の振り返りや、「先生の『スポーツの木』」を見て回る活動を通して、これからどのように運動やスポーツに関わっていきたいかを見付ける。
評価の観点 知・技	①❶		
評価の観点 思・判・表	①❶		②❷
評価の観点 態度		①❶	

※「新学習指導要領」に基づいて、三つの柱で示している。
※【評価の観点に関する補足 】〇指導の中心となる時間 ●評価の中心となる時間

４　学習指導の工夫

（１）自らの運動やスポーツ活動について考える学習

ア　学習プリント「スポーツの木」の活用

本研究では、運動やスポーツの多様な楽しみ方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解することを目指す生徒の姿として設定した。

そこで、自分が運動やスポーツについて楽しみたいことを付箋に書いて、学習プリント「スポーツの木」（図１）に貼る活動を１時間目と３時間目に設定した。

１時間目は、まず付箋に運動やスポーツをどのように楽しみたいかを書く活動を行い、その後「する」「知る」「見る」「応援する」の四つの楽しみ方を学習した。そして、授業の最後に、授業のはじめに書いた付箋を「スポーツの木」に貼り付けながら、四つに分類する活動（図２）を行った。

２時間目は、後述する体験活動（pp. 20-22 参照）を行い、「スポーツの木」に関する直接的な活動は行わなかった。

３時間目は、次に述べる「先生の『スポーツの木』」を見て回った後に、２時間目と３時間目の学習を通して、新たに思ったり、考えたりした運動やスポーツの楽しみ方を、１時間目とは違う色の付箋に書いて、貼る活動を行った。

そして、１時間目の「スポーツの木」と３時間目の「スポーツの木」を比較することで、生徒が楽しみ方の広がりを感じることができるようにするとともに、研究の仮説を検証することとした。

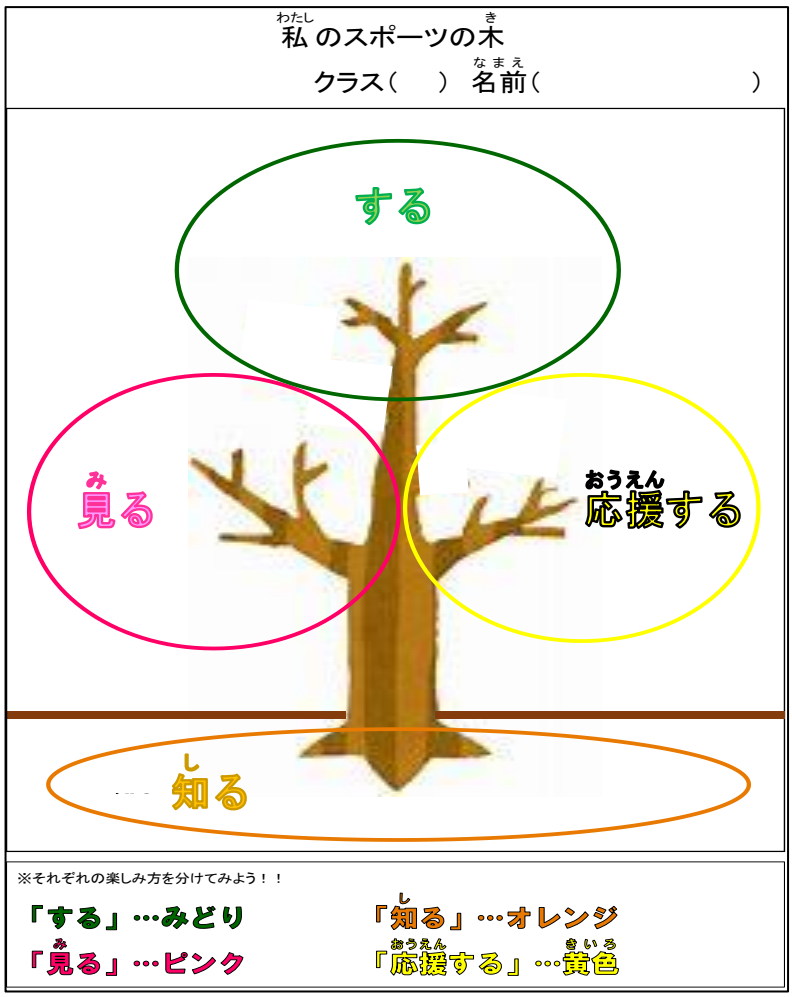


図１　「スポーツの木」

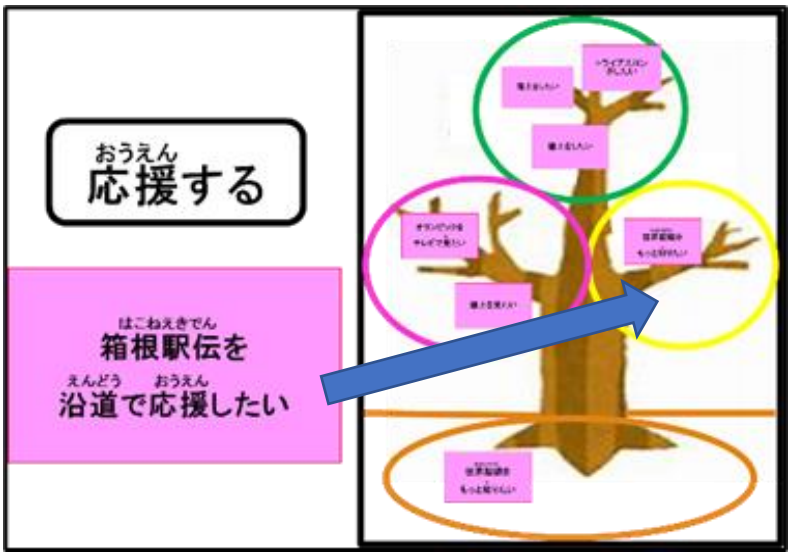


図２　付箋の分類

イ　「先生の『スポーツの木』」の活用

生徒が他者の考え方を知り、運動やスポーツの楽しみ方の幅を広げるための教材として、日常的に関わることの多い、第一学年の教員を中心に、事前に「先生の『スポーツの木』」の作成を依頼した（図３）。その際、生徒にとって理解しやすく、関心をもちやすい内容を意識して作成することを依頼した。

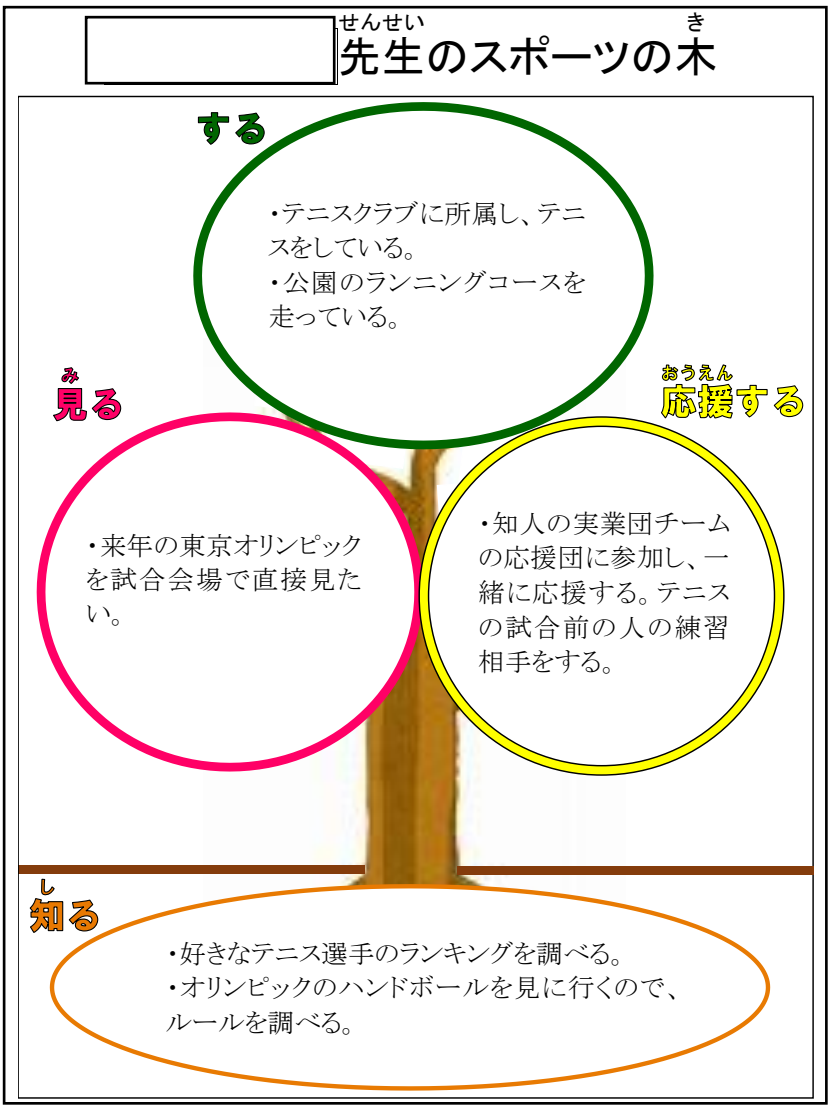


図３　「先生の『スポーツの木』」の例

（２）視聴覚教材の活用

ア　プレゼンテーションソフトの活用

本研究では、体育館で授業を行うこととしたため、体育館のスクリーン（壁）にプレゼンテーションソフトで、学習内容の説明資料及び画像や動画を大きく映しながら説明したり、説明の後、すぐに活動に写るテンポのよい授業を展開したりできるようにした。

スライド教材を作成する際の工夫としては、漢字の読み書きが難しい生徒がいることを踏まえ、全ての漢字にふりがなをふるとともに、イメージしやすいイラストなども挿入することとした（図４）。

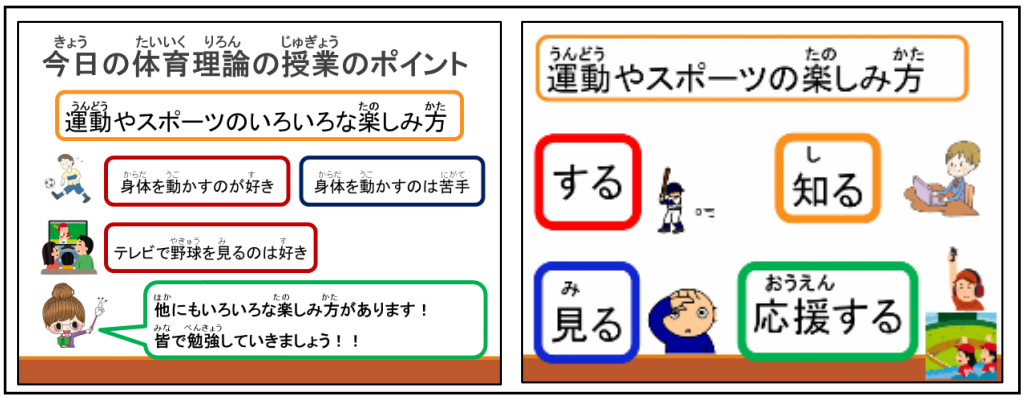


図４　１時間目で活用したプレゼンテーションソフトの例

イ　画像、動画の活用

生徒によりスポーツに関する既有知識が大きく異なることを踏まえ、各スポーツのイメージや特性を共有できるよう、画像や動画を活用することとした。

画像や動画を使用する際に留意した点は次のとおりである（表７）。

表７　画像・動画の使用に関する留意点

・動画を流す時間は長くても３分程度とする。
・画像や動画の大きさは、注目してもらいたいところがはっきりと見えるものとする。
・動画を再生する際は、ウェブサイトの規定に従い、ストリーミングで動画を流す。

（ア）運動やスポーツとの多様な関わり方を理解するための画像や動画

バドミントンの競技中の画像（図５）をスクリーンに映して、「ここに写っている人はどんなことをしているかな」と生徒に発問し、「する」「知る」「見る」「応援する」について具体的にイメージできるようにした。

「応援する」については、声援を送る以外に大会や競技会の運営といったことも含まれる。そこで、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会そのものを支える立場から応援するジョージアのＣＭ動画を活用し、応援するにもいろいろな関わり方があることを理解できるようにした。運動やスポーツとの多様な関わり方で活用した画像や動画は次のとおりである（表８　p. 19 参照）。

図５　運動やスポーツとの多様な関わり方のイメージをもたせるための画像

表８　四つの楽しみ方の理解を促すために活用した画像や動画

画像	1時間目	バドミントン…選手（する）、審判（応援する）、観客（見る・応援する） 視覚障害者のマラソン選手（する）、伴走者（応援する） 体操　選手（する）、コーチ or 監督（応援する） サッカーワールドカップ　観客（応援する）
動画	1時間目	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のCM（応援する）
	2時間目	大学応援団とチアリーダーによる応援（応援する）

（イ）「見る」「知る」楽しさを理解するための画像や動画

「見る」「知る」楽しさを理解するために、オリンピック・パラリンピックなどの国際大会や世界記録樹立などの優れたパフォーマンスの画像や動画を活用することが有効であると考えた。

例として、棒高跳びでは、棒を持って助走をしている画像を使って、棒（ポール）を使って跳躍する競技であることをイメージさせ（図６）、その後、世界記録保持者が跳躍している動画を視聴することで、優れたパフォーマンスを「見る」「知る」楽しさを味わえるようにした（図７）。

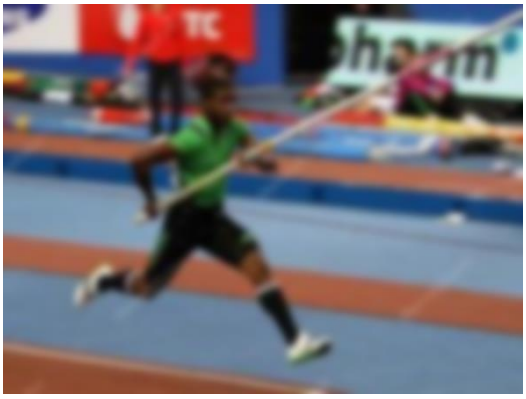


図６　棒高跳びのイメージをもたせるための画

他にも１時間目には、リオデジャネイロオリンピックの女子バドミントンの決勝とリオパラリンピックの女子ゴールボールの予選。２時間目には、世界記録保持者の競技の様子では、男子の走り高跳び（ハビエル・ソトマヨル選手、1993 年樹立）、100m 走（ウサイン・ボルト選手、2009 年樹立）について動画の視聴を行い、真剣勝負の緊張感や勝利の瞬間の高揚感など、運動やスポーツを見る楽しさを感じられるようにした（表９）。

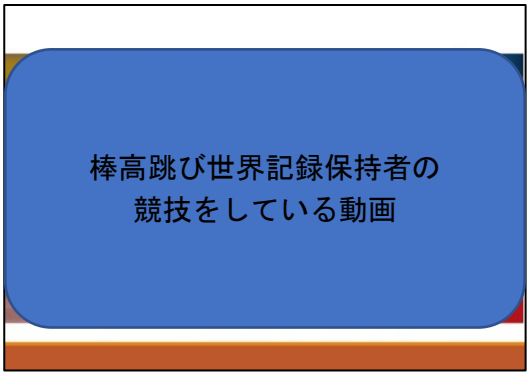


図７　棒を使って跳躍する競技であること をイメージさせるための画像

表９　「見る」「知る」楽しさを理解するための画像や動画

1時間目	・リオデジャネイロオリンピックの女子バドミントンの決勝（優勝） ・リオデジャネイロパラリンピックの女子ゴールボールの予選（一進一退の攻防の末、引き分け）
2時間目	・陸上競技男子走り高跳び （ハビエル・ソトマヨル選手、1993 年　世界記録樹立） ・陸上競技男子棒高跳び （アルマント・デュプランティス選手、2020 年　世界記録樹立） ・陸上競技男子 100m 走 （ウサイン・ボルト選手、2009 年　世界記録樹立）

（ウ）世界記録を身近に目にするもので例えた画像

動画で見た世界記録が、普段の生活の中で目にするものだったら、どのようなものと同じなのかを示すことで、世界記録を実感することができ、より選手の凄さを感じることができるのではないかと考えた。ＮＨＫのウェブサイトにおいて、普段から目にするような世界記録を身近なもので例えた例（図８）が掲載されており、棒高跳びや走り高跳び、100m走について、その資料を活用することとした（ＮＨＫ　2020）。

図８　世界記録を身近なもので例えた例（ＮＨＫ　2020）

（２）「知る」、「応援する」の楽しさを実感する体験活動

本研究の対象生徒に対して運動やスポーツ関わり方についての実態把握をしたところ、多くの生徒は「知る」「応援する」といった関わり方についての知識をもち合わせていないのではないかと考えた。

そこで、１時間目に先述したＩＣＴを活用した授業（pp. 17-20 参照）を行った後、２時間目に体験活動を通じて「知る」「応援する」について理解する授業を行った。その活動は次のとおりである。

ア　陸上競技の世界記録を「知る」活動

陸上競技の世界記録の速さや高さなどは、生徒にとってその凄さがわかりやすく、「知る」楽しさを味わえる教材に向いていると考えた。

そこで、生徒が世界記録の凄さを理解できるように教材を工夫し、速さや高さなどを実感できる体験活動を行った。

（ア）走り高跳びや棒高跳びにおける世界記録の高さを知る

世界記録の中でも、走り高跳びと棒高跳びの記録は、高さとして視覚的に表しやすく、凄さを実感することができると考えた。

はじめに競技について画像や動画を体育館のスクリーンに映しながら説明した後に、生徒がその高さを実感できるように、ヘリウムガスを入れた風船を世界記録の高さまで上げて見せることとした（図９）。

図９　走り高跳び、棒高跳びの世界記録を風船の高さで実感している様子

（イ）100m走の世界記録樹立時の歩幅を知る

当初、男子 100m走の世界記録の速さを実感する活動を検討したが、世界記録の速さを再現するのは難しく、世界記録の際のウサイン・ボルト選手のスタートから７歩分の歩幅を床に足形を貼って再現し、その歩幅の広さを実感する活動とした。

はじめに、ウサイン・ボルト選手が 100m走を走る動画を体育館のスクリーンに映しながら、速さの理解を促し、その後に速く走るには、脚の回転数（ピッチ）が速いことと歩幅（ストライド）が大きいことが必要であることを説明した。

その後に、同じ距離を自分が何歩で走れるか確認し、自分の歩幅とボルト選手の歩幅の違いを比べることで、世界記録の際の歩幅の広さを、実感させた（図 10）。

図 10　世界記録の歩幅を確認している様子

イ　ホームラン競争に挑戦するバッターを集団で応援する

本研究の授業では、「応援する」を二つに分けて指導を行った。一つは、選手やチームに競技場や練習場所又はテレビの前で声援を送る**直接的な応援であり**、もう一つは、審判や役員として大会を支えたり、大会に出る選手のお弁当を作ったりする**間接的な応援である**。

本研究では、**直接的な応援**について、実際に声援を送る体験活動を通じて、集団での応援の楽しさや一体感を理解することができると考えた。そこで、野球（ホームラン競争）の応援をする体験活動を行うこととした。

具体的には、大学野球の応援団とチアリーダーが応援歌（慶應義塾の応援歌といわれている「ダッシュケイオウ」を活用しての応援）に合わせて応援する動画を視聴させ、集団での応援のイメージをもたせた。その後に、第１学年に所属し野球経験のあるＳＴ１名が、ホームラン競争で新記録をねらうバッター役となり、応援団長（ＭＴ）のリードにより、10 球挑戦する間、生徒は集団で応援する活動を行い（図 11　p. 22 参照）、応援の楽しさについて、実感させることで理解できるように計画した。

また、応援にあたっては、シナリオ（資料編　p. 24-25 参照）を事前に作成するとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策という観点から、声援を送るのは、応援団長のみとし、生徒は、ペットボトルやポンポン、手拍子などで応援することとした。

また、ホームラン競争終了後に、バッター役へのインタビューを行い、ＳＴは応援の効果等を語るとともに、感謝の意を表し、生徒に伝えることとした。

図 11　ホームラン競争での応援の様子

（４）個別の支援教材

対象生徒は、一人で考えながら学習を進めていける生徒、学習の内容によっては支援が必要な生徒、学習活動全体に支援が必要な生徒など、個々の状況に応じた支援が必要とされている。今回の検証授業において、自分で文字を書くことや発言することが難しい生徒が２名おり、その生徒達も他の生徒と同じ課題に取り組めるよう、ピクトグラムを活用したプリントを用意するなどの支援を行った（図 12）。

例えば、毎時の導入で運動やスポーツに関するジェスチャークイズでは、ピクトグラムから答えを選ぶことができるようにしたり、「スポーツの木」を作成する際には絵と文字からどの運動やスポーツを楽しみたいかを答えたりできるようにした。その際、体育や校外学習等で行ったことがあると思われる運動やスポーツを中心に提示することで、生徒が理解しやすいようにした。

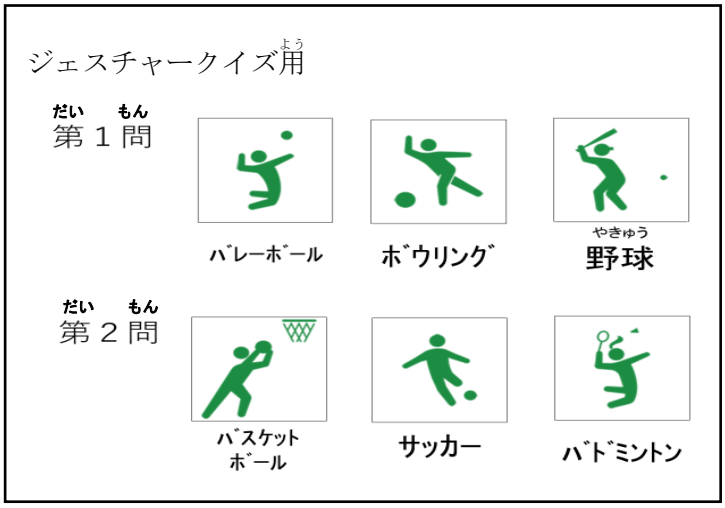


図 12　個別の支援用のピクトグラムの例（ジェスチャークイズ用）

（５）活動の場所の工夫

ア　新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

本研究では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点も踏まえ、ソーシャルディスタンスを保つため、体育館で授業を行った（図 13）。それぞれの場所を指定し、印を付けておくことで、常に一定の距離が保てるようにした。また、生徒同士での話し合いは行わず、基本的に教員とのやり取りで授業を展開することとした。

３時間目に教員が作成した「先生の『スポーツの木』」を見て回る際（図 14）は、見る順番は自由に回れるようにしたが、密にならないよう、足元に足形を置き、周りとの距離を意識できるようにした（図 15）。

図 13　体育館での授業の様子

図 14　教員が作成した「先生の『スポーツの木』」を見て回る様子

図 15　「先生の『スポーツの木』」を見る際の足形

イ　活動内容に応じた場所の設定

本研究の授業では、説明を聞いたり、画像や動画を見たりする活動は、スクリーンにスライドを映しながら体育館前方で行い、動きを伴う体験活動は、体育館後方に場を設定して行った。活動の内容に応じて場所を分けることで、次の活動内容に対して自然と意識が向き、活動にメリハリがつけられるのではないかと考えた。

※詳しい会場図については、「授業の実際」の会場図（p. 27、pp. 30-31、p. 34）を参照

５　授業の実際

（１）授業　令和２年９月 28 日（月）５校時　13：15～14：00　体育館（１／３時間目）

ア　本時の目標

〈知識及び技能〉

運動やスポーツの多様性に関する基礎的な知識を身に付けることができるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

自身の運動やスポーツの経験から、スポーツの楽しみ方を見付けることができるようにする。

イ　本時の評価

〈知識・技能〉

①運動やスポーツとの多様な関わり方について言ったり、書き出したりしている。

【学習プリント】

〈思考・判断・表現〉

①自身の運動やスポーツの経験から、運動やスポーツとの多様な関わり方を見付ける。

【観察・学習プリント】

ウ　展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立（○）てと評価（◆）
はじめ5分	1　挨拶、出席確認 2　ウォーミングアップ【ジェスチャークイズ（3分）】 ・ジェスチャーの特徴を捉え、「何のスポーツ」を「どのように楽しんでいるか（関わっているか）」を考え、答える。 ・第一問　する⇒野球をしている人 ・第二問　する⇒バスケットボールをしている人 3　本時のめあての説明と学習の流れを聞く（2分）	○STにジェスチャーをしてもらい、答え合わせをインタビュー形式で行うことで、生徒たちの気付きを引き出すようにする。 ○解答する方法は発言やカード選択とする。
なか35分	4　運動やスポーツの楽しみ方について考えよう（7分）	
	発問「運動やスポーツをこれからどのように楽しんでいきたいか、考えてみましょう！！」	
	・自分なりの運動やスポーツの楽しみ方を考えて、付箋に書いていく。	○記入する際のヒントとして、「○○を○○たい」を見せながら行う。その際、実態調査の生徒の回答を基に楽しさの例を示す。 ○体育で行ったことのある運動やスポーツを例示しながら、生徒の考えを促す。 ○書けなくて困っている様子などが見られた場合には、STが支援を行う。 ◆〈思考・判断・表現〉【観察・学習プリント】
	5　オリンピック・パラリンピックってどんな大会？（10 分）	
	発問「今年の夏、日本で開催する予定で来年に延期された、大きなスポーツの大会があるけど、なんていう大会だったかな？」	
	・オリンピック、パラリンピックのもつ意義について知る。 ・オリンピックのマークの意味を知る。 ・過去の大会のおける開会式の画像や名場面の動画を視聴し、大会規模の大きさや選手の優れたパフォーマンスを感じる。	○オリンピック・パラリンピックの概要を説明するとともに神奈川で実施されるオリンピック競技についても触れる。 ○画像を活用して丁寧に説明する。 ○生徒の発言については、ホワイトボードに板書し、全体で共有できるようにする。

（次に続く）

なか35分	6 どんな人が写っている？(13 分)	
	発問 「ここに写っている人はどんなことをしているかな？」	
	・画像を見て、選手以外にも審判やスタッフ、コーチなどの沢山の人が大会を応援していることに気付く。 ・運動やスポーツを楽しむことは、「する」だけではなく「知る」「見る」「応援する」など、多様な楽しみ方があるということを知る。 ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を応援するCMを見て、画像で確認した以外にも沢山の人が運動やスポーツに関わっていることや方法があることを知る。	○発問によって生徒から出てきた発言をSTがホワイトボードに板書し、運動やスポーツとの関わり方には、多くの方法があることを全体で共有できるようにする。 ○「応援する」については、声援を送るといった直接的な応援以外に、大会や競技会の運営といった間接的な応援も含まれることを示す。
	7 私の「スポーツの木」を作ろう！振り分けよう！(5分) ・最初に書いた付箋を「する」「知る」「見る」「応援する」に分ける。 ・「スポーツの木」の見本を見て、完成イメージをもつ。	○プレゼンテーションソフトのアニメーション機能を活用し、分類の仕方が分かりやすいように示す。 ◆〈知識・技能〉【学習プリント】
まとめ5分	8 まとめ(5分) ・今日の授業について振り返りプリントに記入する。 ・まとめの話を聞く ・次回の授業について確認をする。 8 挨拶	○「今日は運動やスポーツは『する』こと以外に、『知る』こと、『見る』こと、『応援する』ことなど、人それぞれの運動やスポーツとの関わり方や楽しみ方があることを知ることができたと思います。知って楽しかったかな？」と問いかけ、知る楽しさを考えられるようにする。 ○今日の授業について、どのように感じたかを振り返りプリントに記入するよう促す。 ○次回は体験活動を中心取り組むということを伝える。
準備物	ホワイトボート、ペン、ビデオカメラ、「スポーツの木」の記入例(アンケートの結果を模造紙に記入) プロジェクター、PC、タブレット3台、学習ファイル、振り返りプリント、学習プリント(「スポーツの木」用)、机 スピーカー	

【授業者としての振り返り】

ほとんどの生徒にとって、体育理論の授業に馴染みがなかったのではないかと思われる。

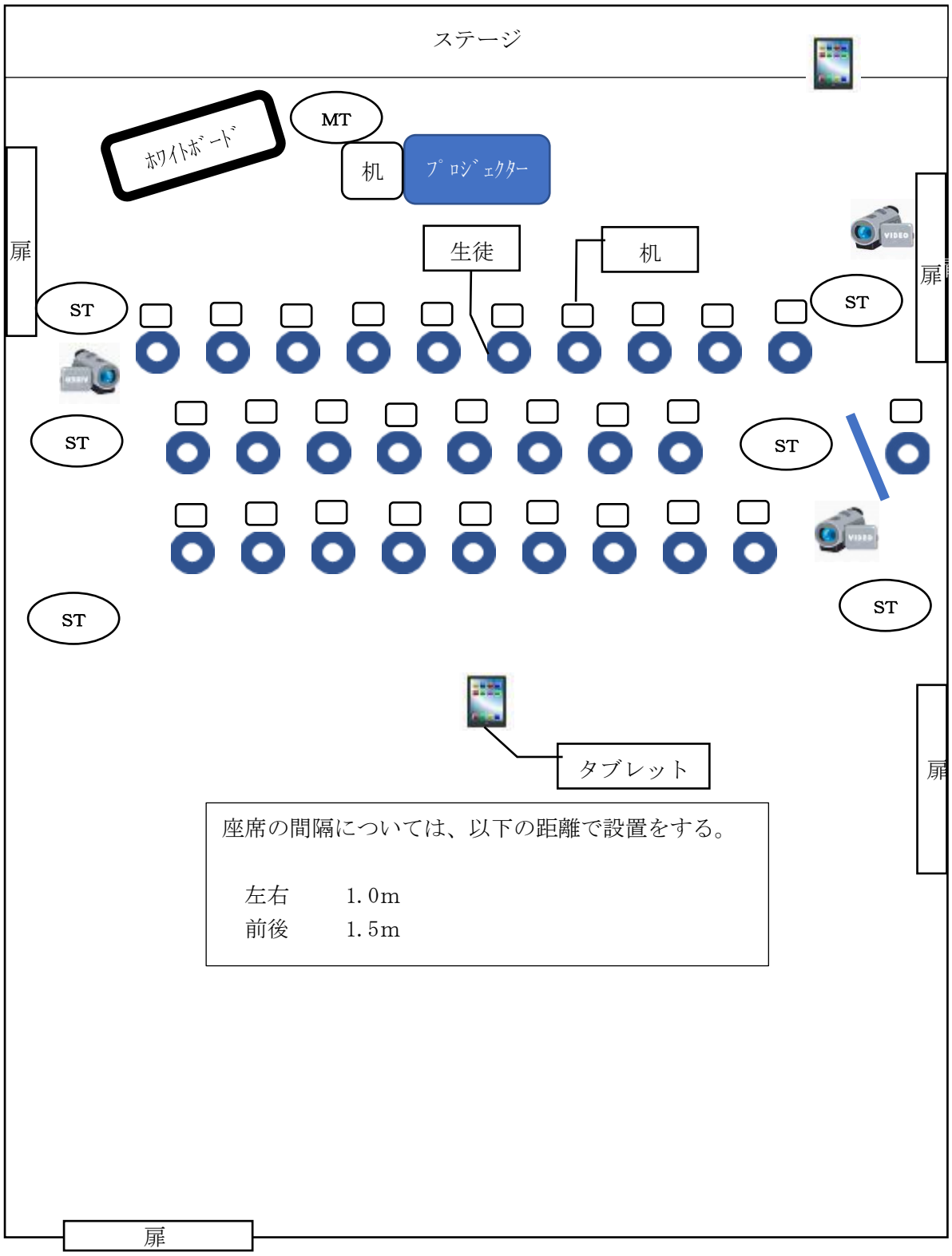
体育館という広い空間の中で、後方に座っている生徒の中には下を向いている生徒もいた。後方の生徒が注目できるような視覚的工夫が必要であった。

１時間の授業で生徒に伝える量としては多かった。また、事前のＳＴとの打ち合わせが十分に取れなかったことで、本時の指導内容や活動のねらい、目指す生徒の姿を全員で共有することが十分にできなかった。反省を次に生かし、改善に努める。

【研究の視点からの振り返り】

動画を活用した場面では、生徒から「わーすごい！」という声があがり、興味関心をもって学習に取り組めていることが伺えた。今回の授業において、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解させたかったが、１時間目ということもあり、授業の進め方の説明や「スポーツの木」のつくり方、オリンピック・パラリンピックの意義など、説明・指導する内容が多くなってしまった。次時では説明する内容を精選していきたい。

エ　会場図（体育館）



※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、生徒同士の距離を設定するとともに、前向きで授業を行うようにした。
※同様の観点から、プリントはＳＴが生徒に配付した。

（２）授業　令和２年 10 月５日（月）５校時　13：15～14：00　体育館（２／３時限目）

ア　本時の目標

〈学びに向かう力、人間性等〉

運動やスポーツの多様性についての学習に積極的に取り組む。

イ　本時の評価

〈主体的に学習に取り組む態度〉

①運動やスポーツとの多様な関わり方について体験活動に、積極的に取り組もうとしている。

【観察】

ウ　展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ7分	1　挨拶、出席確認 2　ウォーミングアップ【ジェスチャークイズ】(5分) ・前時の学習の振り返り。 ・ジェスチャーの特徴を捉え、「何のスポーツ」を「どのように楽しんでいるか(関わっているか)」を考え、答える。 ・第一問　する⇒ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙをしている人 応援する⇒選手を応援している人 ・第二問　する⇒100m走をしている人 応援する⇒インタビューしている人 3　本時のめあての説明と学習の流れを聞く(2分)	○STにジェスチャーをしてもらい、答え合わせをインタビュー形式で行うことで、生徒たちの気付きを引き出すようにする。 ○解答する方法は口頭やカード選択とする。 ○前時で学習した「する」「知る」「見る」「応援する」の四つのスポーツの楽しみ方を確認する。 ○前時に生徒が作成した「スポーツの木」から、運動やスポーツの楽しみ方として、「知る」「応援する」が少なかったことを伝え、本時のめあてにつなげる。
なか33分	4　知ることの楽しさを味わおう！！ 「知識の広場」(20 分) ・陸上競技の世界記録に関する知識について体験活動を通じて理解し、知る楽しさを味わう。	○一人で進めるのが難しい生徒に関しては、STが補助者として帯同し、一緒に取り組む。
	発問 「この世界記録は何の種目でしょうか？」	
	☆「この世界記録は何！？」 男子走り高跳び(2m45) ・男子走り高跳びの画像や動画を見て、競技について知る。 ・世界記録の高さまで上がった風船を見て、視覚的に世界記録の凄さを実感する。	○世界記録に関するクイズを作成し、生徒が楽しみながら知識を得ることができるように配慮する。 ○実際の競技動画を用い、競技についてのイメージが湧くようにする。 ○風船を上げる際、全員でカウントダウンを行い、一体感やわくわく感を感じられるようにする。
	男子棒高跳びび(6m15) ・男子棒高跳びの画像や動画を見て、競技について知る。 ・世界記録の高さまで上がった風船を見て、視覚的に世界記録の凄さを実感する。	○世界記録について、身の回りの物等に置き換えて補足説明し、その凄さをより実感できるように示す。
	男子 100m(9 秒 58) ・男子 100m の画像や動画を見て、競技について知る。	○男子 100m世界記録保持者について、動画を見せながら紹介をする。
	☆「全力で走ってボルト選手の歩幅と比みよう！」 男子 100m 世界記録保持者の歩幅 (会場図①) ・体験の説明を聞く。 ・準備体操 ・会場図②へ移動。	○STが見本を見せて、生徒に自分の歩数と比較させることを理解させる。 ○7歩でいけるようにするものではないことをおさえ、自分の歩数と比較することを理解させてから移動を促す。

（次に続く）

なか33分	・100m世界記録保持者のスタート時の7歩（10.66m）の距離を、何歩で走れるか測定する。 ・何歩で走れたかの記録をカードに記入する。 ・100m世界記録保持者の歩数と比較し、世界記録保持者の歩幅の広さを実感する。	○世界記録保持者の7歩を何歩で走ったか、生徒自身に数えさせるようにする。 ○周囲の安全を確保し、生徒自身にケガをしないように注意を促す。 ○きまりを守って自分の歩数を測ったり、測定結果と100m世界記録保持者の歩数を比較したりすることができているか観察する。 〈主体的に学習に取り組む態度〉【観察】 ○体験は基本的に1回とする。歩数の数え忘れ等がある場合には、再挑戦させる。
	5　応援することの楽しさを味わおう！！ 「秦野養護応援団！！」(13 分) （会場図①） ・STがホームラン競争にチャレンジする様子を見ながら、応援することの楽しさを味わう。	○STがスポーツを「する」役割として、ティーバッティングで 10 球中、何球ホームランを打てるか挑戦する。
	発問 「○○先生がホームラン記録を達成できるように、応援をしよう！どんな応援をしたらいいかな？	
	・どんな応援の方法をしたらよいかを考える。 〈予想される生徒の反応〉 ・声援　・拍手　・手拍子　・名前を呼ぶ ・歌を歌う　・楽器を演奏する ・ジャンプする　・タオルを回す　等	○生徒の発言を促し、自分達でできそうな応援について考えさせる。生徒の発言が難しい場合は、STにも発言を促し、生徒が発言しやすい雰囲気付くりに努める。
	・応援している動画を見て、集団で応援する方法があることを知る。 ・野球の応援について、STが行っているのを見て、集団で応援する方法があることを知る。 応援歌　演奏　メガホン　応援ボード　等 集団の応援 ・生徒が動きや手拍子等で一体となって応援する。 ・応援の仕方を練習する。 ・会場図③へ移動 ・STがホームランを打てるように力を合わせて応援する。 ・応援された人がどんな気持ちになったかを聞く。 6　片付け	○実際に応援している動画を用い、集団で合わせて応援するイメージをわかせやすいようにする。 ○実際に野球を応援する方法について、STがやって見せ、集団で合わせて応援するイメージをわかせやすいようにする。 ○一度、応援の練習を行うことで、生徒が自信をもって動きや手拍子を合わせ、協力して応援できるようにする。 ○MTが応援団長を行い、応援の指揮をとる。 ○演奏の代わりとなるBGMを流し、皆で盛り上げながら応援することの楽しさを感じられるようにする。 ○応援される側の気持ちがわかるよう、「する」役をしたSTにヒーローインタビューを行う。その際に「応援されたことで力がわいた」「やる気がでた」などの感想を言ってもらうようにする。 ※防球ネットに当たったらホームランとする。
まとめ5分	7　まとめ（5分） ・今日の授業について振り返りプリントに記入する。 ・まとめの話を聞く ・次回の授業について確認をする。	○今日の授業について、どのように感じたかを振り返りプリントに記入するよう促す。 ○体験して感じたことについて振り返り、運動やスポーツには、「知る」ことや「応援する」ことの楽しさがあることを再確認する。
	8　挨拶	○次回取り組む内容について、簡単に説明する。
準備物	ホワイトボード、ペン、タブレット3台、ビデオ2台、ラインテープ、振り返りプリント、PC、スピーカー、学習ファイル 学習プリント（ボルト選手と比べてみよう用）、カラーコーン、足マット、風船、紐、プロジェクター、 ティーボールセット、レーザーポインター	

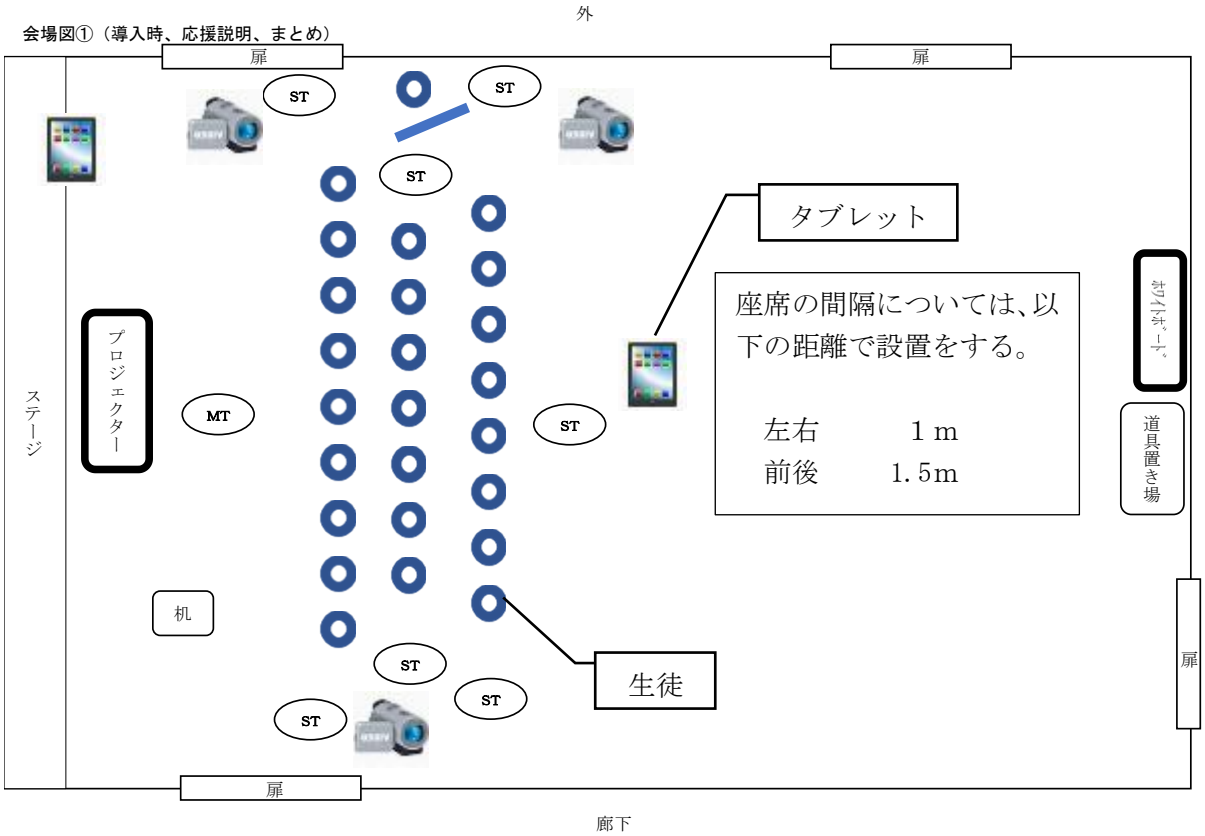
【授業者としての振り返り】

活動の内容によって場所を変えたことで、生徒が「どこで、何をするか」をより理解して取り組めたのではないかと感じた。生徒の反応や発言に対して十分に応えることができていなかった。より生徒が興味関心をもち、積極的に取り組むことができるように、言葉かけ、発問をしていきたい。ホームラン競争などにおいて、ホームランの基準を十分に説明せずに行ってしまったので、生徒にとってわかりにくい部分もあったのではないかと思う。視覚的にわかりやすい工夫の必要性を感じた。

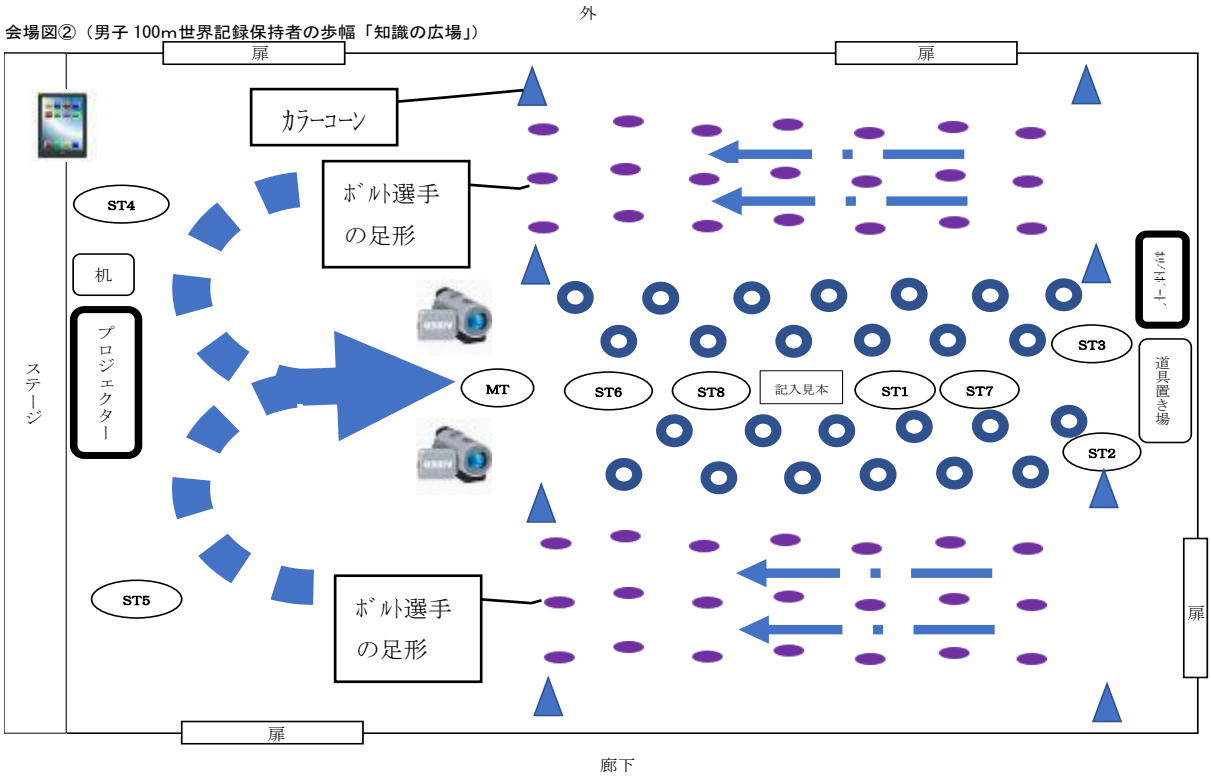
【研究の視点からの振り返り】

２時間目は「知る」「応援する」の体験活動を中心に行った。陸上の世界記録等、動画だけでなく、風船を飛ばし、高さを実感したり、100m世界記録保持者の歩幅を体感したりする活動は、生徒から歓声があがったり、「ボルトすごい！」などの感想が見られた。運動やスポーツとの多様な関わり方について理解を促すためには、有効な手立てであったと感じた。

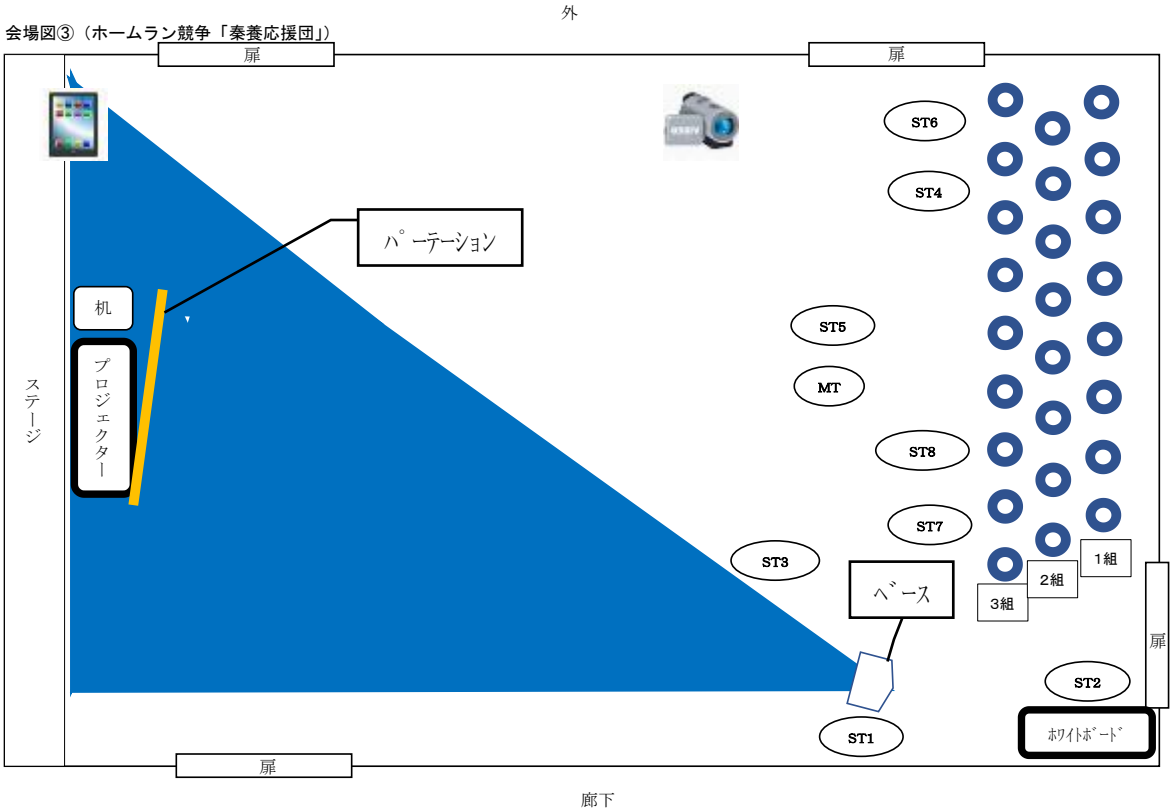
エ　会場図（体育館）



会場図②（男子 100m世界記録保持者の歩幅「知識の広場」）



会場図③（ホームラン競争「秦養応援団」）



※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験活動中は、生徒同士の距離を設定するとともに、近距離での話は避けるように指導した。

※同様の観点から、プリントはＳＴが生徒に配付した。

（３）授業３　令和２年 10 月 12 日（月）５校時　13：15～14：00　体育館（３／３時限目）

ア　本時の目標

〈思考力、判断力、表現力等〉

運動やスポーツの多様性についての課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えたりすることができるようにする。

イ　本時の評価

〈思考・判断・表現〉

②自身のこれからの運動やスポーツとの多様な関わり方について、考えたことを友達に伝えたり、書き出したりしている。【観察・学習プリント】

ウ　展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ12分	1　挨拶、出席確認 2　ウォーミングアップ【クイズ（5分）】 ・動きや発している言葉の特徴を捉え、「何のスポーツ」を「どのように楽しんでいるか（関わっているか）」を考え、答える。 ・第一問　する⇒ランニングをする ・第二問　知る⇒昨日の試合の結果を知る ・第三問　応援する⇒子どものお弁当をつくる ・第四問　見る（応援する） ⇒スポーツをテレビで見る 3　前時の動画を見ながら、「知る」「応援する」ことについて、振り返る。（5分） ・前時の動画を見て、「知る」「応援する」楽しさについて、体験活動を通じて感じたことを振り返る。 4　本時のめあての説明と学習の流れを聞く（2分）	○STが演技をするためのシナリオを作成し（資料編　p.24参照）、答え合わせをインタビュー形式で行うことで、生徒たちの気付きを引き出すようにする。 ○解答する方法は口頭やカード選択とする。 ○クイズを通し、これまで学習した「する」「知る」「見る」「応援する」を振り返り、本時のめあてにつなげていく。 ○「する」「知る」「見る」「応援する」の四つの楽しみ方について、ホワイトボードに常に掲示し、確認できるようにする。 ○前時に行った体験活動の動画を視聴させ、「知る」「応援する」の楽しみ方について、自分の活動の様子を通して、再度実感できるようにする。 ○前時の振り返りプリントの記述を紹介し、「知る」「応援する」楽しみ方について皆で共感できるようにする。
なか28分	5　身近な人の運動やスポーツの楽しみ方に聞いてみよう！（17 分） 発問　「先生たちの『スポーツの楽しみ方』についての話を聞いて、自分も「できそう！」「やってみたい！」ことがあるか考えてみよう！」 ・「先生の『スポーツの木』」についての話を聞く。 ・疑問に思ったことを質問する。 ・いろいろな「先生の『スポーツの木』」を見る。 ・自身のこれからの運動やスポーツの四つの楽しみ方について、イメージを湧かせる。	○代表のST2名に、「先生の『スポーツの木』」を基に、自身の運動やスポーツの楽しみ方について発表をしてもらい、生徒が運動やスポーツの四つの楽しみ方について、自分も「やってみたい！」「その楽しみ方があったか!」など、イメージを湧かせられるように配慮する。 ○発表した先生以外の「先生の『スポーツの木』」を壁に掲示し、見て回ることで運動やスポーツの四つの楽しみ方のイメージを更に湧かせられるようにする。 ○「先生の『スポーツの木』」を見る際には、自由に見て回れるようにするが、隣の人との間隔をとるように言葉かけをしたり、足形を設置したりするなど、密に配慮する。

（次に続く）

なか28分	6　私の「スポーツの木」を大きくしよう！（11 分）	
	発問 「自分がこれから運動やスポーツをどのように楽しんでいきたいか考えよう！」	
	・授業を受けて、これからどのように運動やスポーツを楽しんでいきたいか（関わっていきたいか）を考え、付箋に記入したり、運動やスポーツの四つの楽しみ方に分類しながら木に貼ったりする。 ・自分の「スポーツの木」を発表する。 ・友だちの「スポーツの木」の話を聞く。	○1時間目に作成した「スポーツの木」に、体育理論の授業を受けた上で考えられたものを追加して貼ることを伝える。その際、1時間目とは違う色の付箋を用意し、視覚的に違いがわかるようにする。 ○「先生の『スポーツの木』」を見て、運動やスポーツの楽しみ方の幅が広がるようにする。 ○一人でイメージするのが難しい場合は、教員に相談したり、もう一度「先生の『スポーツの木』」を見たりしながら進めてよいことを伝える。 ○2～3名の生徒に、自分の「スポーツの木」をプロジェクターで映した上で、発表してもらう。 ◆〈思考・判断・表現〉【観察・学習プリント】
まとめ5分	7　まとめ（5分） ・まとめの話を聞く。 ・今日の授業について振り返りプリントに記入する。 ・次回の予告を聞く 8　挨拶	○体育理論で学習した、運動やスポーツの四つの楽しみ方について振り返り、単元全体のまとめを示す。 ○今日の授業について、どのように感じたかを振り返りプリントに記入するよう促す。 ○次回取り組む内容について、簡単に説明する。
準備物	ホワイトボート、ペン、ビデオカメラ5台、プロジェクター、PC、振り返りプリント、学習プリント（「スポーツの木」）、机、ICレコーダー	

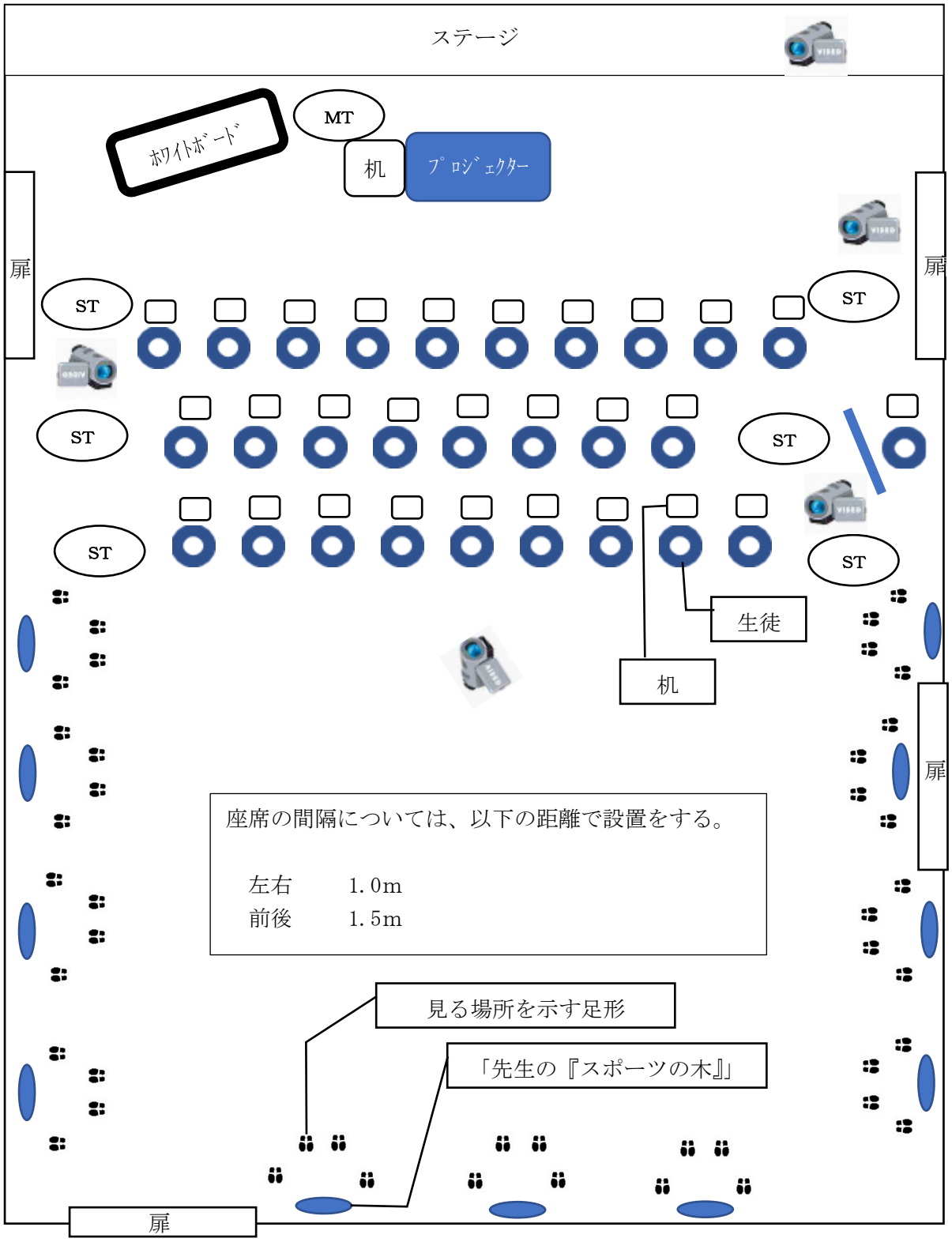
【授業者としての振り返り】

振り返りの動画は、前時とのつながりをもたせることができ、効果的であった。スライドの文字数が多くなってしまった。生徒がより理解しやすくするためには、いかにキーワード化できるかが大切であった。今回学んだことが今回限りにならないよう、今後の体育の授業に生かしていくことが大切であると考える。

【研究の視点からの振り返り】

「先生の『スポーツの木』」を見て回ることは、自分にあった運動やスポーツの多様な楽しみ方がなかなか思いつかない生徒にとっては、多様な楽しみ方を知るために有効であったのではないかと考える。自身の「スポーツの木」の作成では、多様な広がりを見せている生徒がいた。一方で、書くことに悩み、書けない生徒もいた。この点に関しては、ＳＴへの事前説明等が十分ではなかったためと考えられる。

エ　会場図（体育館）



※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「先生の「『スポーツの木』」を見て回る際には一定の距離を確保し、近距離での話は避けるように指導した。
※同様の観点から、プリントはＳＴが生徒に配付した。

６　検証授業の結果と考察

検証授業で得られたデータを基に、検証の視点に沿って仮説を検証することとする。

検証授業の出席状況は表 10・11、事前・事後アンケートの回収状況については表 12 のとおりである。

本研究では、全クラス一緒に授業に取り組んだため、クラス毎のデータとせず、３クラスを一つの集団として、仮説を検証することとした。

なお、本校の生徒の学習の状況は表 13 のとおりである。

表 10　各検証授業の出席者数状況

	１時間目	２時間目	３時間目
１年１組（８名）	６名	７名	６名
１年２組（８名）	５名	６名	７名
１年３組（９名）	６名	６名	７名
学年合計（25 名）	17 名	19 名	20 名

表 11　検証授業の出席状況

１時間目だけ出席	０名
２時間目だけ出席	０名
３時間目だけ出席	１名
１・２時間目に出席	２名
１・３時間目に出席	０名
２・３時間目に出席	０名
全ての授業に出席	17 名
全ての授業に欠席	５名

表 12　事前・事後アンケートの回収状況

	事前	事後
１年１組（８名）	７名	６名
１年２組（８名）	７名	７名
１年３組（９名）	６名	６名
学年合計（25 名）	20 名	19 名

表 13　生徒の学習の状況

グループ	生徒の実態とその数
学習グループA	一人で学習に取り組める(10 名)
学習グループB	基本的に一人で学習に取り組むことは可能だが、部分的な支援が必要(9名)
学習グループC	学習活動に対し、全体的に支援が必要(6名)

本研究における事前・事後のアンケート結果の分析においては、２時間以上授業に出席、かつ、事前と事後のアンケートの両方に回答した生徒（18 名）を対象とした。また、運動やスポーツとの多様な関わり方を見とるための「スポーツの木」(pp. 16～17 参照) の変容については、学習をした上でどのような変容が見られたかを検証するため、３時間すべてに出席した生徒（17 名）を対象とした。

なお、検証の対象となる人数は、欠席者やその質問への未記入者により変わるため、図表には、その都度ｎ数（対象の生徒数）を記載した。文中の生徒の記述内容については、生徒が記述したままの表現で掲載しており、誤字・脱字については筆者が修正した。

（１）生徒が授業をどのように捉えたか

生徒が、各授業をどのように捉えたかを検証するため、高橋らによる形成的授業評価票（p.８参照）から４項目を抜粋したもので、授業終了後、生徒に各時間の評価を行ってもらった。

各項目の回答は、「はい」を３点、「どちらでもない」を２点、「いいえ」を１点として、毎時間の項目ごとに平均点を算出した（表 14）。図 16 は、算出した平均点をグラフに表したものである。

表 14　形成的授業評価の結果

日付	9月 28 日	10 月5日	10 月 12 日
授業時間	1時間目	2時間目	3時間目
項目	（n＝17）	（n＝18）	（n＝16）
1　感動の体験 「深く心に残ることや、感動することがありましたか。」	2.44（4）	2.44（4）	2.38（4）
2　新しい発見 「『あっ、わかった！』とか『あっ、そうか！』と思うことがありましたか。」	2.53（3）	2.61（4）	2.75（4）
3　楽しさの体験 「今日の授業は楽しかったですか。」	2.65（3）	2.89（4）	2.75（3）
4　自主的学習 「自分から進んで学習することができましたか。」	2.35（3）	2.83（5）	2.63（4）

※（　）は、５段階評定

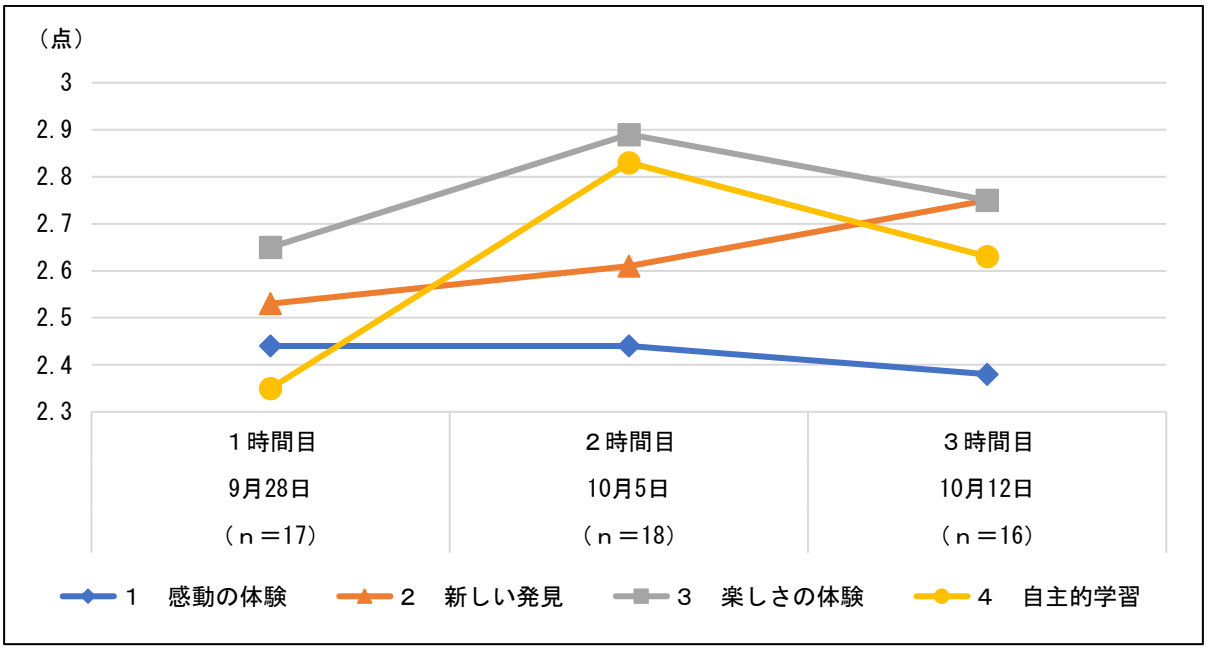


図 16　形成的授業評価の診断結果の推移（平均値）

図 16 を見てみると、「感動の体験」は１・２時間目とも 2.44 点であるが、３時間目は 2.38 点とやや低下している。これは、１・２時間目には機会のあった、オリンピックやパラリンピックの名場面や世界記録の誕生する場面の動画の視聴が、３時間目にはなかったことの影響が考えられる。

「新しい発見」については、１時間目は 2.53 点、２時間目は 2.61 点、３時間目は 2.75 点と単元が進むにつれて平均点が上昇した。１時間目の授業では、学習内容が初めて学ぶ内容（運動やスポーツの楽しみ方「する、知る、見る、応援する」）であったため、「あっ、わかった！」「あっ、そうか！」という十分な理解まで到達できなかったが、２時間目に体験活動を通じて実感したり、３時間目に他の人の考え（先生の「スポーツの木」）に触れたりすることで、徐々に理解が促進されていったと考えられる。

「楽しさの体験」については、1 時間目が 2.65 点、２時間目が 2.89 点、３時間目が 2.75 点であり、体験活動を行った２時間目が、最も高くなった。これは、本研究において重点的に検討を重ねて計画した体験活動が生徒に評価されたと考えられる。

同様に「自主的学習」についても、１時間目が 2.35 点、２時間目が 2.83 点、３時間目が 2.63 点であり、体験活動を行った２時間目が最も高く、評定でも最も高い「５」を記録した。

また、表 14 から四つの項目の評定を概観すると、２・３時間目は、評定が概ね「４」であり、２時間目以降、生徒は授業を肯定的に受け止めていたと考えらえる。

（１）「生徒が授業をどのように捉えたか」のまとめ

・１時間目に比べ、２・３時間目には生徒による授業評価は概ね高くなり、中でも２時間目の授業の評価が高かったことから、概ねの生徒は、体験活動を肯定的に捉えていたと考えられる。

（２）体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考えることができたか

ア　体験活動を通じて「知る」楽しさと「応援する」楽しさが伝わったか

本研究では、対象生徒に実施した運動やスポーツについての実態把握をしたところ、多くの生徒が運動やスポーツとの関わり方である「知る」「応援する」についての知識をもち合わせていないと考えた。

そこで、本研究では、特に「知る」「応援する」の楽しさを実感できる体験活動を行い、生徒における運動やスポーツの楽しみ方が増えるように授業を計画した。

図 17 は、「知る」「応援する」の体験活動を行った２時間目の授業後の振り返りにおける質問「『知る』ことの楽しさは、わかりましたか」「『応援する』ことの楽しさは、わかりましたか」に対する回答結果であり、表 15 は、双方の活動についての感想である。

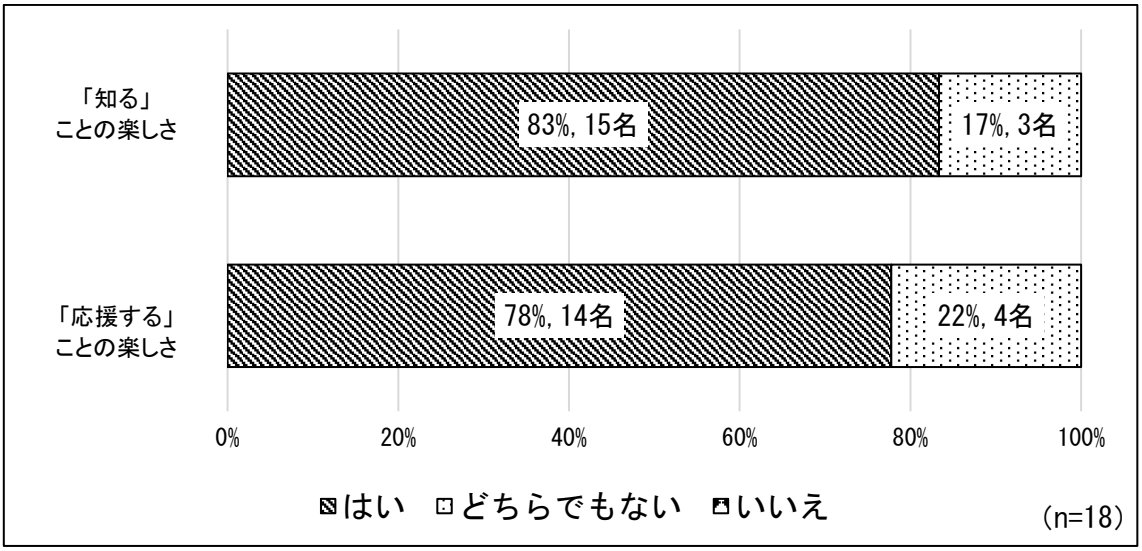


図 17　「知る」「応援する」ことの楽しさがわかったかという質問に対しての回答

表 15　授業後の感想

	「知る」楽しさの感想	「応援する」楽しさの感想
A1	色んな人の記録を見てすごいなと思いました。	**応援が大切なことがわかりました。**
A2	**言われてもわからないけど、見たりしたらわかりやすかった。**	**みんなと応援できてよかった。**
A3	**テレビで見るより高さが上だった。**	**やるのもよいけど、応援するのもありだと思った。**
A4		
A5	面白かった。	楽しかった。
A6	ウサイン・ボルトで 10mで7歩ってことはだいたい1歩に1.4mの距離で走っているんだなと思いました。自分も10m7歩で走れたのでうれしかったです。	**普段野球の中継では、静かに見てますが、生で誰かが実際にやるとめっちゃくちゃすごかったので、興奮しました。**
A7	世界記録を見てすごいなと思いました。	A先生がすごかった。
B1	**知る楽しさがわかりました。**	A先生のホームランがすごいなと思った。
B2	今日は知る楽しさが分かったので、勉強になりました。	応援してよかったです。
B3	知識が身について	ペットボトルたたくの楽しい。
B4	**世界記録のすごさが実感できました。**	**応援も大事だなと感じました。**
B5	マラソン選手の気持ちがわかった。	楽しかった。
B6		**応援する大切さを学びました。**
B7	知ることはいいことだと思いました。	
B8	ボルトすごかった。	**応援楽しかった。**
B9		
C2		
C3	楽しかったです。	応援楽しかったです。

※**太字**は筆者による

※生徒記号のＡは学習グループＡ、Ｂは学習グループＢ、Ｃは学習グループＣを表している。（p. 35 参照）

図 17 を見ると、「知る」「応援する」ことの楽しさがわかったかという質問に対して、「はい」と回答した生徒は、「知る」が 83%、「応援する」が 78%であり、「いいえ」と回答した生徒は、どちらもいなかった。

また、表 15 を見ると、多くの生徒が「わかった」「楽しかった」等の感想を書いており、「知る」「応援する」ことの楽しさが伝わったのではないかと考えられる。

「知る」ことの楽しさについての感想には、「知る楽しさがわかりました」「世界記録のすごさが実感できました」「言われてもわからないけど、見たりしたらわかりやすかった。」「テレビで見るより高さが上だった。」との記述（**太字**）があり、これらは、体験活動を行うことで実感がわき、「知る」楽しさへの理解が促されたと考えられる。

「応援する」楽しさについての感想では、「応援楽しかった」「応援が大切なことがわかりました」「みんなと応援できてよかった」「やるのもいいけど、応援するのもありだと思った」「普段野球の中継では、静かに見ていますが、生で誰かが実際にやるとめっちゃくちゃすごかったので、興奮しました」などの記述（**太字**）があった。これらは、野球経験のあるＳＴが挑戦したホームラン競争を集団で応援する活動を行ったことで実感が湧き、応援する楽しさへの理解が促されたと考えられる。

一方、「応援する楽しさ」についての感想には、「応援が大切なことがわかりました」「応援も大事だなと感じました」など、応援の大切さについて記述（**太字**）があった。これは、新記録を達成したホームラン競争終了後のバッター役のＳＴへのインタビューで、「みんなの応援がすごく力になったので、いい記録を出すことができました！応援してくれてありがとう！」と、応援の効果等を語るとともに、応援への感謝の意を表して生徒に伝えたことが影響した考えられる。

その他の感想についても、肯定的な感想が多く、否定的な感想は見られなかった。

以上のことから、体験活動を行ったことで実感が湧き、理解が促され、多くの生徒に、「知る」ことや「応援する」ことの楽しさが伝わったのではないかと考えられる。

イ　自らの運動やスポーツ活動について考えることができたか

図 18 は、体育理論の授業で、「する」「知る」「見る」「応援する」のそれぞれの楽しみ方に関して考えることができたかについて、事後アンケートにおける質問の回答結果である。

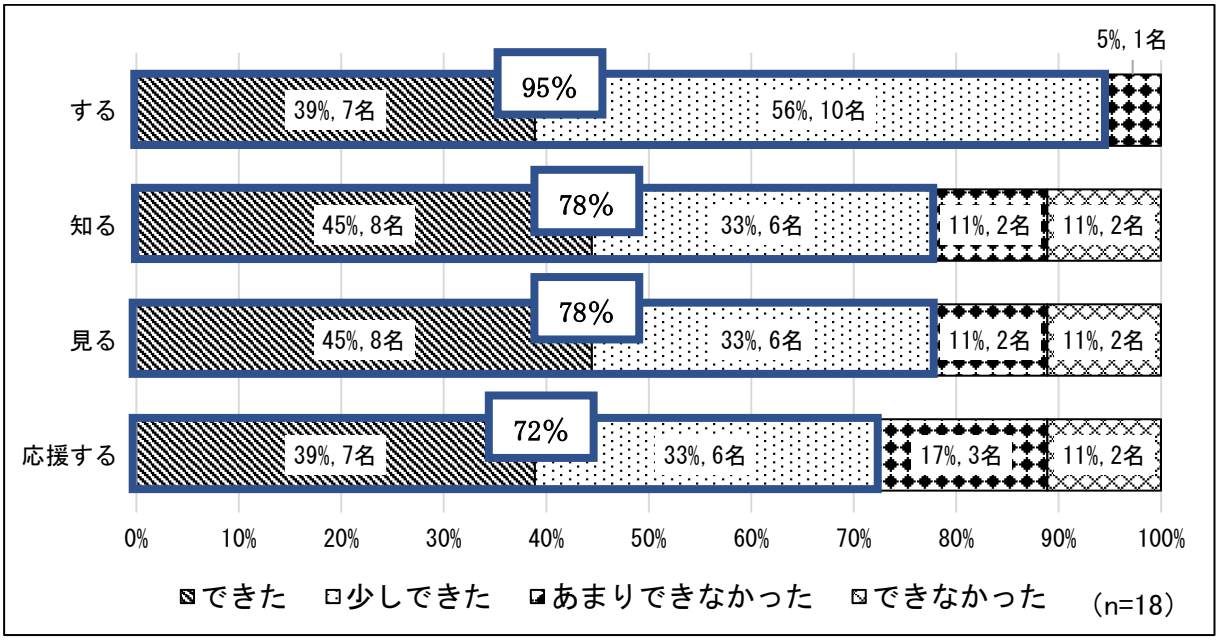


図 18　四つの楽しみ方に関して、考えることができたかについての質問に対する回答

図 18 を見ると、「できた」と「少しできた」を合わせた群（以下、「できた群」という）は、「する」で 95%、「知る」「見る」で各 78%、「応援する」で 72%となり、どの楽しみ方

においても 70%以上となり、多くの生徒は、自らの運動やスポーツ活動の四つの楽しみ方について考えることができたと考えられる。

本研究の授業においては、「する」楽しさについて、体験活動の指導は行わなかったが、四つの楽しみ方の中では、１番考えることができたことがわかった。これは、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの映像を見たり、「知る」こと「応援する」ことについて体験活動を行ったりしたことが、「自分もやってみたい！」という気持ちをもつことに、つながったのではないかと考えられる。

（２）体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考えることができたか」のまとめ

・体験活動を行ったことで、多くの生徒に「知る」ことや「応援する」ことの楽しさが伝わったと考えられる。 ・概ねの生徒は、自らの運動やスポーツ活動の四つの楽しみ方について、考えることができたと考えられる。

（３）運動やスポーツとの多様な関わり方を理解することができたか

ア　運動やスポーツの楽しみ方が、どのように変容したか。

本研究では、単元の初めと終わりに、自身の運動やスポーツの楽しみ方について付箋に記入し、「する」「知る」「見る」「応援する」の四つの楽しみ方ごとに「スポーツの木」に貼る活動（p. 16 参照）を行い、運動やスポーツの楽しみ方（付箋）の変容について分析することとした。表 16 は、各生徒の付箋への記載内容を１時間目と３時間目に分けるとともに、四つの楽しみ方ごとに整理したものであり、この表に基づき図 19～21 のグラフを作成した。

なお、ここで対象とする生徒に関しては、３時間すべての授業に参加した生徒（17 名）とした。

表 16　学習グループ別の「スポーツの木」の変容

			1時間目記入分	3時間目追加分
学習グループA	A1	する	・ドッジボールやりたい。 ・ダーツやりたい。 ・トランポリンで遊びたい。	・水泳をしたい。★ ・夕方ランニングをする。★
		知る		・ボルダリングのルールを知りたい。★
		見る	・カーレースを見たい。 ・サッカーを見たい。	
		応援する		・プロレスを応援する。
	A2	する	・鬼ごっこをしたい。 ・ドッジボールをしたい。 ・eスポーツをしたい。	・プールで泳ぎたい。★
		知る		
		見る	・プロレスを会場で見たい。 ・eスポーツを見たい。	
		応援する		
	A3	する	・いろいろなスポーツをしたい。 ・体操系をやりたい。 ・水泳をやりたい。	・いろいろなスポーツをやりたい。 ・楽しいなら何でもよい。選り好みせず、いろんなスポーツをやりたい。 ・かっこいいと思った技を真似して勉強する。
		知る		・スポーツ特集を見て知る。★
		見る	・水泳を見たい。 ・剣道を見る。 ・スポーツ選手の頑張りを見る。	・いろいろな競技の試合を見たい。 ・選手の試合を見てモチベーションをあげる。
		応援する		・いろいろな選手の試合を応援して、見て技術を盗みたい。 ・テレビでできる範囲で応援する。
	A4	する	・自転車に乗る。	
		知る		
		見る		
		応援する		
	A5	する		・鉄道を見るとき沢山歩く。
		知る		
		見る	・テレビで見たい。	
		応援する	・eスポーツ。	・モータースポーツ。
	A7	する	・散歩したい。 ・普段あまり体を動かさないので、体育で軽く体を動かしたい。 ・体が硬いのでｽﾄﾚｯﾁをして柔らかくしたい。	・弟と一緒に遊びたい。 ・土日の家にいる時間（暇なとき）はｳｫｰｷﾝｸﾞしたい。★
		知る		・もう少し多くのスポーツの名前、ルールを知りたい。★
		見る	・運動のプロの本気の試合を見たい。 ・テレビでスポーツを見たい。	・お父さんが野球好きなので、もう少しちゃんと気にしてみてみたい。
		応援する		・来年も弟の運動会を応援したい。★
学習グループB	B1	する	・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝをしたい。 ・平泳ぎの練習。 ・縄跳びの二重跳びに挑戦する。	・プールで泳ぎたい。★ ・毎日ランニングをする。★ ・野球をしたい。★
		知る		
		見る		
		応援する		

番号			1時間目記入分	3時間目追加分
学習グループB	B2	する	・水泳やりたい。 ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝやりたい。 ・卓球したい。 ・走幅跳やりたい。 ・リレーやりたい。 ・野球やりたい。 ・サッカーやりたい。 ・ドッジボールやりたい。	・ボルダリング。★ ・スノーボード。
		知る		
		見る	・空手見たい。	
		応援する		・プロの卓球を応援したい。★ ・プロのサッカーを応援したい。★
	B4	する	・走高跳をやりたい。 ・走幅跳をやりたい。 ・反復横跳びをやりたい。	
		知る		・自分の記録を知る。
		見る		
		応援する		
	B5	する	・ﾌｨｷﾞｭｱｽｹｰﾄをしたい。 ・バレエをしたい。 ・ゴルフをしたい。 ・テニスをしたい。 ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝをしたい。 ・プロレスをしたい。	・スノーボードをしたい。 ・新体操をしたい。 ・トランポリンをしたい。★ ・器械体操をしたい。★
		知る	・野球（巨人他）。	・スケートの滑り方。★
		見る	・シンクロナイズドスイミングを見たい。	・カヤックの大会。 ・スポーツ観戦。★ ・水泳。★
		応援する	・スイミング。 ・野球。	・レスリング。 ・オリンピックの商品を買う。★
	B6	する	・ソフトボールをしたい。 ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝをしたい。	・サッカーの練習場所に行きたい。★ ・ゴルフを自分でやってみたい。★
		知る		
		見る	・テニスを見たい。	・陸上競技をテレビで見たい。★ ・卓球の応援をテレビで見たい。
		応援する		・水泳選手をテレビで応援したい。★
	B7	する	・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝをしたい。	・バスケットをする。★
		知る		
		見る		・サッカーの試合を見る。★
		応援する		
	B8	する		
		知る		
		見る		
		応援する		
	B9	する	・バドミントンしたい。 ・走りたい。	・泳ぎたい。★
		知る		
		見る		・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝのプロの試合を見てみたい。
		応援する		・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝを応援する。
学習グループC	C1	する	・ダンス ・散歩	
		知る		
		見る	・ボウリング	
		応援する		
	C2	する	・ボッチャ。 ・山登り。	
		知る		
		見る	・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ。	
		応援する	・野球。	
	C3	する	・野球やりたい。 ・サッカーやりたい。	
		知る		
		見る		
		応援する		

※★印は、「先生の『スポーツの木』」に記載されていた競技名や記述内容と同じもの

（ア）運動やスポーツの四つの楽しみ方の変化

図 19 は、生徒が記入した全ての付箋を１時間目と３時間目で分け、「する」「知る」「見る」「応援する」の四つの楽しみ方ごとの割合について示したグラフである。

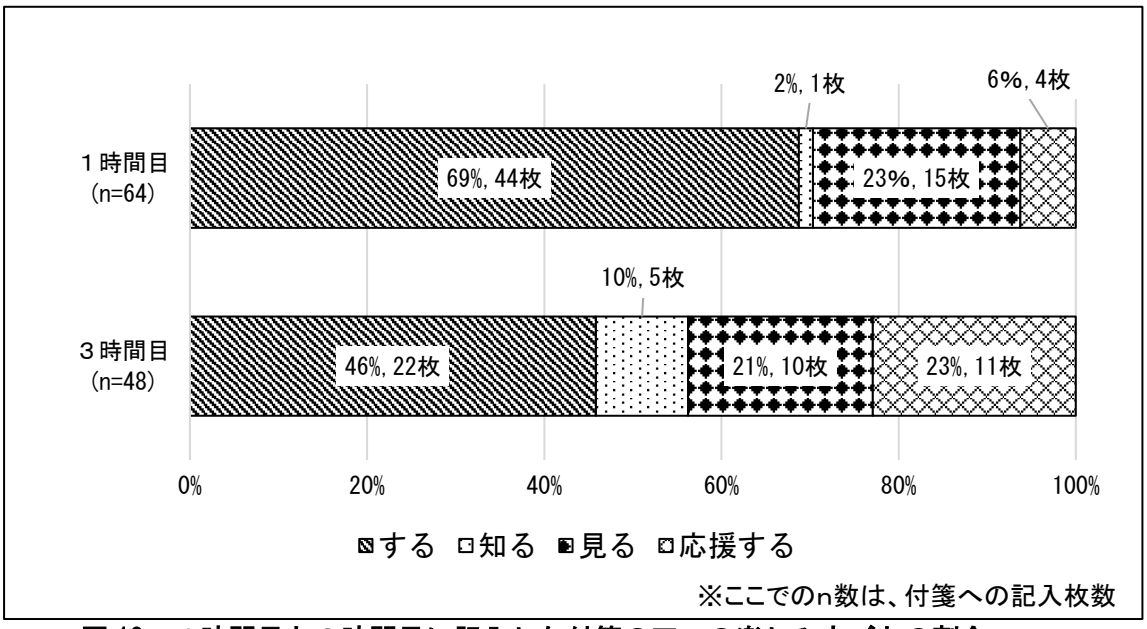


図 19　１時間目と３時間目に記入した付箋の四つの楽しみ方ごとの割合

図 19 を見ると、１時間目に記入した付箋の内容は、「する」が 69%と圧倒的に多く、「知る」は２%、「応援する」は６%であった。３時間目に記入した付箋の楽しみ方の割合は、「する」は 46%と変わらず最も多いものの、「知る」は 10%、応援するは 23%と、増加が見られた。また、「見る」は、23%から 21%とほぼ変わらなかった。

これらのことから、「知る」「応援する」を体験活動等で重点的に指導した授業の成果が、現れたと考えられる。

３時間目に生徒が記入した 48 枚の付箋のうち、27 枚が「先生の『スポーツの木』」に記述されていた競技名や運動やスポーツの楽しみ方と同じ内容であった（表 16★印）。

表 17 は、３時間目の振り返りプリントにおける質問「先生のスポーツの木」を見てどう思いましたか」に対する回答（自由記述）を示した表である。授業の感想で、「自分では思いつかないこともあってすごかった」「やってみたい、知りたいスポーツが増えた」（**太字**）などの記述が見られた。

このことから、「先生の『スポーツの木』」を見て回ったことが、生徒の気付きにつながり、運動やスポーツの楽しみ方を増やすことに役立ったのではないかと考えられる。

表 17　「先生の『スポーツの木』」を見てどう思ったか

回答結果
・いろいろなスポーツが出てきてすごかったです。
・自分では思いつかなかったこともあってすごかった。
・先生方それぞれ頑張って練習してるんだなと思った。
・いろいろあってすごいと思った。
・いろんな楽しみ方があるんだなと思いました。
・先生たちはいろいろと考えてやっていることがわかりました。
・やってみたい、知りたいスポーツが増えた。
・水泳とかテニスの他のスポーツの楽しみ方を学びました。
・楽しかったです。

※**太字**は筆者による

（イ）運動やスポーツの楽しみ方の増加

図 20 は、生徒が付箋に記入した四つの楽しみ方について、１時間目に記入することができた人数と、１時間目には記入できていなかったが、３時間目に新たに記入することができた人数を表したグラフである。

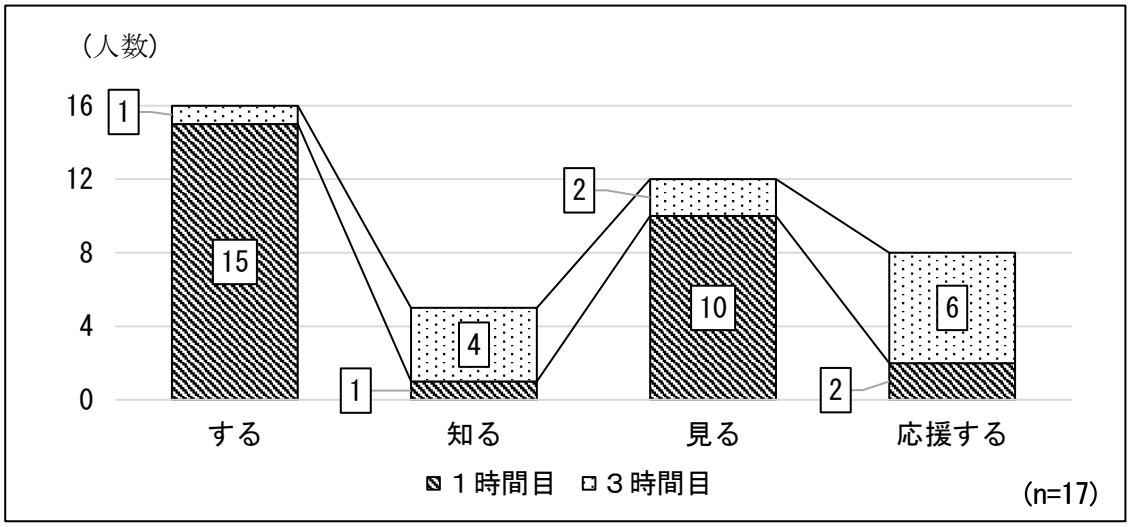


図 20　楽しみ方ごとの１時間目の記入者数と３時間目の増加した記入者数

図 20 を見ると、「知る」は４名、「応援する」は６名が、新たな楽しみ方として付箋に記入できたことがわかる。特に「応援する」については、１時間目に未記入だった生徒の約半数の生徒に記述が見られた。

このことからも、「知る」「応援する」を体験活動等で重点的に指導した授業の成果が、現れたと考えられる。

図 21 は、四つの楽しみ方のうち、各生徒が１時間目に記入できた楽しみ方の数（最大４）ごとの人数割合と３時間目に追記したものを合わせて記入できた楽しみ方の数ごとの人数割合を示したグラフである。

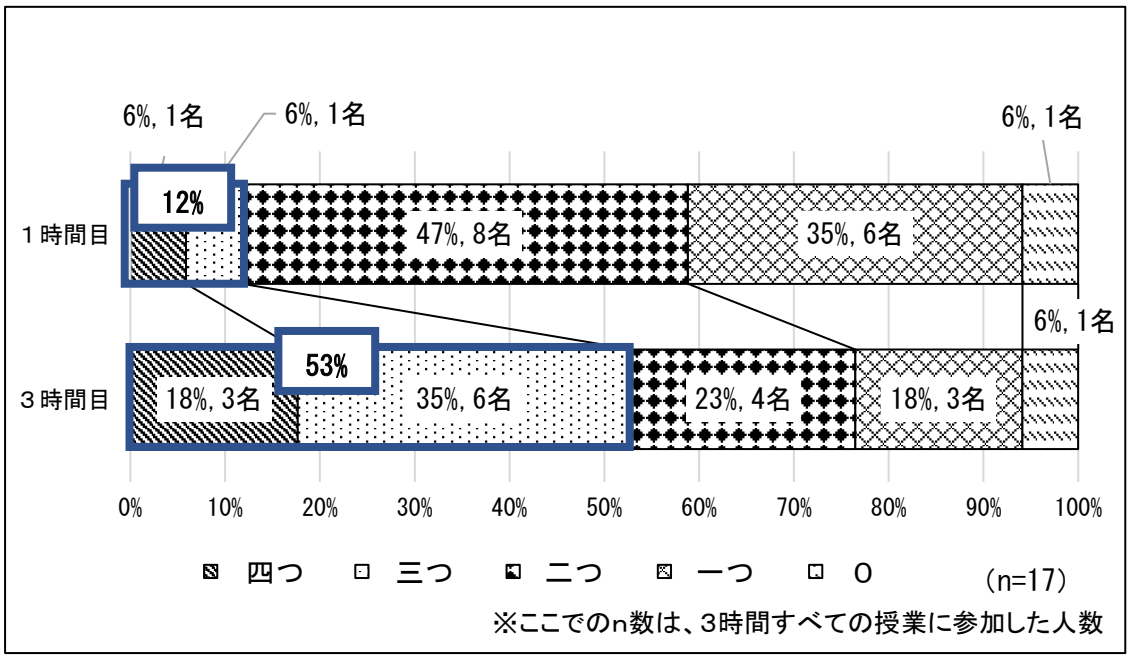


図 21　１時間目と３時間目で記入できた楽しみ方の数ごとの人数割合

図 21 を見ると、三つ以上の楽しみ方を記載した生徒は、１時間目終了時には 12%であるが、３時間目終了時には、53%となるなど増加が見られ、全体的に楽しみ方の幅が広がっていることがうかがえる。

表 16 からＢ８の生徒を見ると（p. 42 参照）、３時間を通して楽しみ方を見付けることができなかったことがわかる。１時間目と３時間目に「スポーツの木」を作成する際、ＳＴから「体育の時間やったことがあるので、好きなことはない？」などの言葉かけをしたところ、考えている様子は見られた。しかし、「う～ん・・・」などの反応をするにとどまり、記入するまでには至らなかった。また、学習グループＣの生徒も、１時間目には記入が見られたものの３時間目に追記することができていなかった。

これは、授業後の協議の場で、「情報共有の時間がもっとあった方がよかった」との意見があったことから、ＭＴがＳＴに各学習活動の意図やねらいを十分に伝えられなかったことが原因の一つとして考えられる。

（ウ）付箋に記入した内容にみられた質的な変化について

ここでは、３時間の授業を通して、記入した付箋の記述内容に特徴的な変化が見られた３名の生徒について見ることとした。表 18 は、事前・事後アンケートの回答状況から、各生徒の実態についてまとめたものである。表 16 を基に３時間の授業を受け、記入した付箋の内容がどのように変化したかについて示した（表 19-１～３）。

表 18　抽出生徒について

		A7	B5	B9
事前	運動が好きか	あまり好きじゃない	好き	好き
事後	運動が好きか	少し好き	好き	好き
	「する」について考えられたか	できた	できた	できた
	「知る」について考えられたか	できた	できた	できなかった
	「見る」について考えられたか	できた	できた	できなかった
	「応援する」について考えられたか	できた	できた	少しできた

※事前・事後アンケートを基に作成

Ａ７の生徒は、「運動やスポーツが好きですか」という質問に対し、事前では「あまり好きじゃない」と回答していたが、事後には「少し好き」に変化が見られた生徒である。また、事後アンケートの四つの楽しみ方については全て考えることができたと回答しており、「スポーツの木」も１時間目は「する」「見る」についての記入だけであったが、３時間目には、四つの楽しみ方の全てに記入することができた。

「見る」についての記述を見ると、１時間目は、「運動のプロの本気の試合を見たい」など、自身が楽しむことへの記入であったのに対し、３時間目は、「お父さんが～」など第三者が楽しむことを踏まえた記入が見られるようになった。これは、「先生の『スポーツの木』」など、他者の楽しみ方を知る活動を行ったことで、より身近な人の運動やスポーツの楽しみ方にも興味をもったのではないかと考えられる。

表 19-１　抽出生徒の内容の変容（Ａ７）

スポーツの木への記述の質的変化		
	1時間目	3時間目
「する」	・散歩したい。 ・普段あまり体を動かさないので、体育で軽く体を動かしたい。 ・体が硬いのでストレッチをして柔らかくしたい。	・弟と一緒に遊びたい。 ・土日の家にいる時間（暇なとき）はウォーキングしたい。
「知る」		・もう少し多くのスポーツの名前、ルールを知りたい。
「見る」	・運動のプロの本気の試合を見たい。 ・テレビでスポーツを見たい。	・お父さんが野球好きなので、もう少しちゃんと気にしてみてみたい。
「応援する」		・来年も弟の運動会を応援したい。

Ｂ５の生徒は、「運動やスポーツが好きですか」という質問に対し、事前・事後ともに「好き」と回答している生徒である。また、事後アンケートの四つの楽しみ方については全て考えることができたと回答しており、１時間目、３時間目ともに四つの楽しみ方へ記入することができていた。

「応援する」についての記述を見ると、１時間目の記入は、競技名だけの記述であり、これは直接的な応援をイメージしていると考えられる。３時間目には、直接的な応援についての記述だけでなく、「オリンピックの商品を買う」という間接的な応援することについての記述も見られた。このことから、３時間の授業を通して、二つの応援について理解することができたのではないかと考えられる。さらに、「先生の『スポーツの木』」に「オリンピックスポンサー企業の商品を買うようにしている」と記述されていたことから、「先生の『スポーツの木』」を見て回る活動も「応援する」楽しみ方に影響を与えたと考えられる。

表 19-２　抽出生徒の内容の変容（Ｂ５）

スポーツの木への記述の質的変化		
	１時間目	３時間目
「応援する」	・スイミング。 ・野球。	・レスリング。 ・オリンピックの商品を買う。

Ｂ９の生徒は、「運動やスポーツが好きですか」という質問に対し、事前・事後ともに「好き」と回答している生徒である。また、事後アンケートの四つの楽しみ方ごとについて考えることができたかという質問に対し、「知る」「見る」については、考えることができなかったと回答していた。しかし、３時間目の「スポーツの木」への記入を見ると、「見る」「応援する」については新たな記入が見られた。

１時間目には「する」について「バトミントンをしたい」などの記述が見られたが、その他の楽しみ方についての記入は見られなかった。３時間目には、「見る」について「バドミントンのプロの試合を見たい」や、「応援する」について「バドミントンを応援する」などの記述が見られた。これは、１時間目にリオデジャネイロオリンピック女子バドミントン決勝の試合動画を見たことより、これまでは、「する」楽しみ方として捉えていたバドミントンを「見る」「応援する」といった楽しみ方からも捉えられるようになったのではないかと考えられる。

表 19-３　抽出生徒の内容の変容（Ｂ９）

スポーツの木への記述の質的変化		
	１時間目	３時間目
「する」	**・バドミントンをしたい。** ・走りたい。	・泳ぎたい。
「知る」		
「見る」		**・バドミントンのプロの試合を見たい。**
「応援する」		**・バドミントンを応援する。**

イ　運動やスポーツの四つの楽しみ方が理解できたか。

表 20 は、事後アンケートにおける質問「３時間の授業で、運動やスポーツの楽しみ方として、『する』『知る』『見る』『応援する』について学習しましたが、どのようなことがわかりましたか。わかったことを書いてください。」に対する回答（自由記述）について、「事前アンケート」における質問「運動やスポーツが好きですか（４件法）」の回答状況により分けて（「好き」「どちらかというと好き」を「好き」群（12 名）、「好きじゃない」「あまり好きじゃない」を「好きじゃない」群（６名））示した表である。

表 20　３時間の授業で運動やスポーツの楽しみ方についてわかったこと

	回答結果
好き群（12名）	・楽しいこと。（回答数　10 名） ・世界記録のすごさがわかりました。 ・いろんな楽しみ方があることがわかった。 ・スポーツ選手の気持ちがわかった。 ・応援は〇〇先生がホームラン打ったことです。 **・やってみて応援したくなった。** **・運動をする、見る以外にも本や動画を見て知る方法や直接応援する以外の応援の仕方を学習できてよかった。** ・人の応援をすると人って頑張る勇気が湧くんだなと思いました。 ・体力づくりを応援する。 ・運動を知ったり、応援することによって、オリンピックなどの観客がどれだけの迫力があるかをしりました。「スポーツを見る」の場合は、僕が知っている「ウサイン・ボルト」がどれくらい速いか、どこがすごいかを見てみると、まず、10mを7歩で走るのがすごかったりしたので、そうとうタイムなどが速いだろうなと…と思いました。でも一番楽しかったのが、先生がホームラン競争のバッターをやってて、すごさが自分でも分かったのがよかったなと思いました。
好きじゃない群（6名）	・スポーツにはいろいろな楽しみがあることを知った。（回答数　４名） ・いろんなスポーツはいろんな人によって、頑張っているんだなと思いました。 ・する＝スポーツの楽しさ、見る＝理解する、応援する＝団結を学習する（理解する） **・この3時間の授業をして「する」「知る」「見る」「応援する」の四つの考え方が増えました。（授業をする前はあまり思いつかなかったけど、授業をしたらいっぱいかけた。）**

※**太字**は筆者による

表 20 の３時間の授業でわかったことについての記述を見ると「やってみて応援したくなった。」「運動をする、見る以外にも本や動画を見て知る方法や直接応援する以外の応援の仕方を学習できてよかった。」（**太字**）などの記述が見られた。

このことから、体験活動を行ったことにより、「知る」ことや「応援する」ことの楽しさを実感し、理解することができたのではないかと考えられる。

「好き」群、「好きじゃない」群に分けたが、「好きじゃない」群において、「この３時間の授業をして『する』『知る』『見る』『応援する』の四つの考え方が増えました」（**太字**）などの肯定的な記述が多く、運動やスポーツが好きか好きじゃないかに関係なく、多くの生徒が運動やスポーツの四つの楽しみ方を理解することができたのではないかと考えられる。

表 21 は、事後アンケートにおける質問「授業の感想を書いてください。感想（自由記述）を「好き」群と「好きじゃない」群に分けて示した表である。

表 21　授業の感想についての回答（運動やスポーツへの興味関心別）

	回答結果
好き群（12名）	・楽しかったです。 ・スポーツは楽しむことだけではないということがわかりました。 ・人によって楽しみ方が変わるってことがわかった。 ・運動やスポーツの楽しみが自分に大切だなと心から思うようになったけど、家にいるとお父さんにいろいろと言われるからなかなかできません。 ・体力づくりを「走って頑張る」です。 **・特に応援する楽しさやすること、知ること、見ることについていい勉強になった。** ・この授業をする前、パラリンピックについてほとんど知らなかったし、オリンピックの世界記録をほんとに見たり、応援の仕方を勉強できてよかった。 ・今回の授業に関しては、付箋にも書いたとおり、僕が書いた「見る」がオリンピックで逆転優勝や圧勝とかで勝てて、僕もすごさが分かりました。「知る」の場合は僕の場合は、知らなかったスポーツがあったり、やったことのないスポーツが発見できたりして、自分も少し興奮もできて、いつか僕のやりたいバスケットのフリースローでの5点マッチやキックベースボールなどをやりたいなと思いました。 （回答数　８名）
好きじゃない群（6名）	・いろんなスポーツが知れて嬉しかったです。 ・すぐ終わった。 ・楽しかったです。 **・四つの楽しみ方を自分の目、体で感じられてよかったです。** （回答数　４名）

※**太字**は筆者による

表 21 を見ると、「特に応援する楽しさやすること、知ること、見ることについていい勉強になった」「四つの楽しみ方を自分の目、体で感じられてよかったです」など、運動やスポーツへの多様な関わり方について理解しているとの記述（**太字**）が見られている。体験活動についての感想が多く、生徒が運動やスポーツの楽しみ方について実際に取り組んだことで、運動やスポーツの楽しさを実感できたのではないかと考えられる。また、先にも述べたが、運動やスポーツが好きか好きじゃないかによって記述の変化は見られなかった。

このことからも、運動やスポーツが好きか好きじゃないかに関係なく、多くの生徒が運動やスポーツの四つの楽しみ方を理解することができたのではないかと考えられる。

（３）「運動やスポーツの多様な楽しみ方を理解することができたか」のまとめ

- ３時間目には運動やスポーツの四つの楽しみ方の増加がほとんどの生徒に見られ、運動やスポーツの楽しみ方の幅が広がってきていると考えられる。
- 体験活動で「知る」「応援する」について重点的に指導したことにより、二つの楽しみ方についての記入が増え、理解することができたのではないかと考える。
- 他者の運動やスポーツとの関わり方を知ることは（「先生の『スポーツの木』」）、運動やスポーツが好きか好きじゃないかに関係なく、運動やスポーツの四つの楽しみ方を理解し、自らの運動やスポーツの楽しみ方の幅を広げることに有効であると考えられる。

（４）仮説検証のまとめ

・体験活動を通じて体育理論を学ぶことは、概ねの生徒が肯定的に捉えるとともに、運動やスポーツの四つの楽しみ方を理解するために有効だと考えられる。
・他者の運動やスポーツの四つの楽しみ方を知ることは、運動やスポーツが好きか好きじゃないかに関係なく、自分の運動やスポーツの楽しみ方の幅を広げることにつながると考えらえる。

第４章　研究のまとめ

１　研究の成果と課題

本研究では、仮説「特別支援学校知的障害教育部門高等部１年生の体育理論の授業において、生徒が体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考える学習によって、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」を理解することができるであろう。」のもと、授業実践とその仮説検証を中心とした検討を行い、その結果、次のことが明らかになった。

（１）体育理論の授業に体験活動を取り入れることによる成果

多くの生徒は、体育館で行った３時間の体育理論の授業を肯定的に捉えた。中でも２時間目の体験活動を、生徒は高く評価した。

体験活動によって、一流選手のパフォーマンスや集団での応援の効果等、スポーツのもつ価値を、実感しながら理解することができた。

（２）他者の運動やスポーツとの関わり方を知ることによる成果

生徒が自らの運動やスポーツの楽しみ方を広げる上で、普段から関わりのある教員が作成した、「先生の『スポーツの木』」を見て回る活動が有効であった。

（３）個々の状況に応じた支援の課題

本研究では、「スポーツの木」の成長が見られなかった(付箋が増えなかった)生徒もいた。それは、ＭＴが学習活動の意図やねらい等をＳＴに十分に説明できなかったことが原因の一つであると考えられる。

２　体育理論の授業づくりについての提案

本研究では、運動やスポーツとの多様な関わり方「する」「知る」「見る」「応援する」について、体験活動を通じて、自らの運動やスポーツ活動について考えることによって学ぶ特別支援学校知的障害教育部門高等部１年生における体育理論の授業を提案することを目的に、研究を進めてきた。そこで、前述の研究の成果と課題を踏まえ、授業づくりのポイントを四つ提案する（表 22)。

表 22　成果と課題を踏まえた授業づくりのポイント

○座学のイメージを捨てる

体育理論は教室で座学を行うものといったイメージを捨て、活動に応じた場所を設定し、体験活動を取り入れる。

○「知る」楽しさと「応援する」楽しさの重点的な指導

「知る」楽しさと「応援する」楽しさの理解促進に重きを置いた指導を行う。

○先生や友だちのスポーツライフの教材化

生徒が日常的に関わることの多い教員のスポーツライフを教材として活用する。また、今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、友だちとの情報交換は行わなかったが、今後は、友だちのスポーツライフも教材として有効に活用できると考える。

○体育理論の内容の共通理解と授業に関わる情報共有

新たに領域として設定された体育理論の授業についての事例は少ない。「新学習指導要領」や『新解説知的(下)』の、内容を共通理解した上で、授業に関わる情報の共有及び検討が今後も必要であると考えられる。

表 22 の①で述べた内容について、本研究において設定した体験活動を整理したものを参考として次に示す（表 23）。

表 23　体験活動についての整理

「知る」楽しさを感じる体験活動
「男子走り高跳びと男子棒高跳びの世界記録」
→○目で高さを感じられるよう、風船を上げて見せる
「男子 100m 走世界記録樹立時の最初の７歩の歩幅」
→○体で歩幅の広さを感じられるよう、足形を床に貼る
→○歩幅のもつ意味を事前に説明する
「速く走るためには、速い脚の回転（ピッチ）と広い歩幅（ストライド）が必要であること」

「応援する」楽しさを感じる体験活動
「ホームラン競争をしているバッターを集団で応援」
→○皆で合わせやすく、一体感を感じられるような応援歌を選定する
今回は「ダッシュケイオウ」を選定
→○応援のための用具を調達する
ペットボトル、ポンポン、担ぎ太鼓等
→○シナリオを作成する
・ＳＴが空振りやホームランを打つタイミング
・応援団長の振る舞い等
・ＳＴへのインタビューの場面設定（ＳＴが応援の効果を語るとともに、応援してくれた人にお礼を言う）

※教材には、生徒が目や耳、体で感じられるようなものを設定した。
※体験活動の前には、既有知識の差を埋めるために、画像や動画を活用し、丁寧な説明を行った。

３　今後の展望

（１）３年間を見通した体育理論の継続

特別支援学校において、新たに体育理論が加わり、３年間を通して学ぶこととされた。本研究では、１年生を対象とし運動やスポーツの多様性についての授業を行った。

これまで生徒にとっての運動やスポーツに対するイメージは「する」ということに偏りがあったが、運動やスポーツとの多様な関わり方について学習したことは、運動やスポーツが好きな生徒だけでなく、苦手意識がある生徒に対しても、今後の運動やスポーツの楽しみ方の幅を広げる機会となったと考えられる。

教員からの感想では、「年数回ではなく、少なくとも日に１回は、このような授業があると、生涯スポーツにも役立っていくと思いました」や「『これも体育なんだ』という気付きがあり、運動が苦手な生徒も自分なりのスポーツへの関わり方を確認できたと思います。『知識としての体育』に『これが体育？』と戸惑う様子も見られました。初めての経験なので、継続していけば慣れていくと思いました。」との記述があった。これらの感想から、３年間を見通して、体育理論を継続的に学ばせることの必要性を実感した。

１年次に運動やスポーツを「する」「知る」「見る」「応援する」ことについて知ることにより、保健体育科の目標で示されている、体育の見方・考え方を働かせることにもつながるのではないかと捉えた。

運動やスポーツの多様性について学んだ上で、２年次に運動やスポーツの効果と学び方、安全な行い方、３年次に文化としてのスポーツの意義について学ぶといった流れがよいのではないかと考える。また、本研究では中学校の学習指導要領を参考にし、３時間の授業で行ったが、今後指導していく上で、適切な指導時間についても検討する必要がある。内容についても、学年ごとに何について学ぶかを考え、３年間を通して、計画的に指導していけるようにしていきたい。

（２）個々の生徒の状況に応じた支援体制の検討

本研究では、学年全体を対象とし、一斉授業で取り組んだ。体験活動については、学年全体の大人数で取り組んだことで、生徒の実態にかかわらず、周りの人の反応に触れたり、集団で応援する楽しさを実感したりすることができたのではないか考えらえる。

しかし、「スポーツの木」を作成する活動などにおいては、全員の生徒が同じように学習活動に取り組むには、準備や個別の支援の工夫、事前の打ち合わせが不足していた。授業後の研究協議では「実態別のアプローチがあっても良かった」「目的達成のための手立てが沢山あるとよい」などの意見があった。

本研究の反省を踏まえて、事前の打ち合わせや準備の時間を十分にとることで個々の状況に応じた支援の方法を充実させ、感動や発見を生徒皆で共有しながら学習していける授業づくりを行っていきたい。また、一斉授業で体験活動を行うことによって感動などを周りの人と共有することを大事にしつつ、「スポーツの木」を作成する活動などについては、学習グループ別で指導するなどの支援体制も柔軟に検討していきたい。

（３）体育理論と運動に関する領域との関連付け

体育理論は学んで終わりではなく、学んだことをその後の体育の授業に生かしていくことが豊かなスポーツライフの実現の一助になるのではないかと考える。そのためには、体育理論と他の運動に関する領域との関連付けが必要であり、さらには、学校生活においても体育理論で学んだことを生かす機会をつくることが大切であると考える。

本研究の対象学年では、体育理論の授業後の体育で、ティーボールの授業を行っている。教員からは、その時の生徒の様子として、「『応援が大切！』ということを思い出し、生徒自ら応援する姿がありました。」との報告を受けている。

また、朝の体力づくりの時間には、走っている生徒を見ている生徒に対して、教員が「これって、体育理論で勉強した応援と同じだよね。」と関連付けながら生徒の応援を促す場面があったなどの話も聞かれた。

これらの報告から、体育理論で「応援する」ことについて学んだことが、その後の授業につながり、生かされていると実感をした。

体育理論で学んだことについて、別の場面でも実際に行ったり、その楽しさや大切さを実感したりすることで、より自分自身の活動として捉えることができるのではないかと考える。今後、体育理論の学習を進めていく上で、他の領域とどう関連付けていくかを考え、計画的に取り組み、体育理論の内容をより理解できるようにしていきたい。

（４）体験活動を通じた学び

家庭状況により、運動やスポーツの経験の多寡に差がある。運動やスポーツを「する」ことについては、学校の体育で行っていることもあり、ほとんどの生徒が意識できている。運動やスポーツの多様な楽しみ方の「知る」と「応援する」については、１時間目の初めに作成した「スポーツの木」でも見たように、あまり意識できていない。特別支援学校の授業において、体験活動を通じて学ぶということは、よく行われており、今回の体育理論の学習においても、生徒の知識の習得（理解）を促すため、体育館において、目や耳、体で感じる体験活動を交えた授業（pp. 20-22 参照）を行った。体験活動を通じて、楽しさや魅力を感じ、生徒の興味関心を高めることができ、「する」こと以外の楽しみ方を実感することができるのではないかと考える。今後授業を展開していく上で、運動やスポーツの多様性だけでなく、効果と学び方や安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義について、生徒がわかりやすいよう、体験活動として落とし込み、実感する活動ができるかが大切である。様々な実態の生徒に対し、生徒が「やりたい！」と感じ、一緒に授業を行うＳＴも「こんな授業をつくりたい！」と思えるような体験活動を通じて学ぶ体育理論の授業を構築していきたい。

最後に

今回、このような機会をいただいたことで、自身の授業に対する考えや取組について改めて見直すことができた。日々の授業の中で、何を伝えたいか、どう伝えれば伝わりやすいかなど、考えて取り組んでいたつもりになっていたことを痛感した。私自身、体育の授業をすることが久しぶりであったが、「運動やスポーツの楽しさを感じてもらいたい」「苦手な生徒にも楽しみを見出してもらいたい」という思いで取り組んだ。今回の研究において、長い時間をかけて授業をつくり込むという経験ができたことは、私にとって財産である。

授業づくりを進めていく上で、担当学年の先生方には、忙しい中で時間を作っていただいた。なかなか学校に出向くことができず、十分な打ち合わせができていなかったと感じた。しかし、授業を終え、生徒たちから「楽しかった」や「四つの楽しみ方を自分の目、体で感じられてよかったです。」などの感想をもらえたことが嬉しかった。また、先生方からも、生徒が本研究で学んだことを思い出して活動していることや指導する側の意識が変わったなどの意見もいただき、とても嬉しかった。今回の研究において、まだまだ欠けている部分があったことは反省すべきであると感じている。同じ生徒に同じ授業は二度とできない。だからこそ、一緒に取り組む先生方の力を借りながら、試行錯誤し、一度の授業を大切に、より生徒が分かり、楽しめ、役に立つ授業を作っていけるよう、精進していきたい。

謝辞

最後になりましたが、本研究を行うにあたり、御多用の中、検証授業の準備、実施に際し、多くの御協力をいただいた秦野養護学校の学校長をはじめとする職員の皆様に深く感謝申し上げます。また、専門的な見地から様々な御指導や御助言をいただいた、日本体育大学教授の岡出美則様に深く感謝申し上げます。そして、研究の趣旨に御理解いただいた対象生徒の保護者の皆様に感謝申し上げます。

最後に、いつもの雰囲気とは違う環境での授業でも、最後まで一生懸命取り組んでくれた知的障害教育部門高等部１年生の生徒の皆さんに大いに感謝いたします。ありがとうございました。

［ 引用・参考文献 ］

中央教育審議会答申　2016　「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

文部科学省　2009　「特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（高等部）」　pp.455-459

文部科学省　2019a　「特別支援学校高等部学習指導要領」

文部科学省　2019b　「特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編（下）（高等部）」

高橋健夫、長谷川悦示、浦井孝夫 2003 「体育授業を形成的に評価する」（高橋健夫編『体育授業を観察評価する』 明和出版 ）

ＮＨＫ　2020　「びっくり！陸上競技の世界記録を〇〇に例えてみた！」
https://www3.nhk.or.jp/sports/story/859/index.html